

日医総研ワーキングペーパー

第7回 日本の医療に関する意識調査

No. 448

2020年9月23日

キーワード

- ◆ 意識調査
- ◆ 新型コロナウイルス感染症
- ◆ 受診控え
- ◆ かかりつけ医
- ◆ 医療満足度
- ◆ 健康意識
- ◆ 不安感

ポイント

- 新型コロナウイルス感染症の蔓延により 82.1%の国民が生活の不安を感じ、96.8%が外出自粛要請に従っていた。また、強制的な外出禁止や休業などが必要と考える人は 93.6%にのぼった。
- 生活様式の変化で精神的不調を感じている人は 35.6%、体の不調は 20.7%であった。医療機関で感染に不安を感じる人は 69.3%で約 7 割にのぼり、受診控えの要因となっていた。感染防止策を行いつつ、国民の心身への影響に対応することが急がれる。
- 感染状況や対策について国が迅速な情報提供を行ったかについては 58.6%が迅速でなかったと考えていた。秋冬の感染症に備え、国民へのタイムリーな情報提供が求められる。
- かかりつけ医がいる人は全体の 55.2%で過去調査から大きな変化は見られなかった。コロナ禍においてかかりつけ医の役割がいっそう重要となる中、かかりつけ医を持ちたい人の支援と普及が課題である。
- 過去 1 年以内に受けた医療への満足度は 92.4%、医療全般については 76.1%でいずれも高い傾向が継続している。（設問には中間回答無し）
- 提供体制における重要課題のトップ 2 項目は、救急医療と感染症対応の充実であった。
- 所得に関係なく平等な医療を受けたいと思う人の割合は 74.3%で過去調査から傾向に変化がなかった。国民の平等医療への要望が示された。
- 経済的理由で必要な医療を受けなかった人は、等価所得 200 万円未満の間では 7.8%を占め、所得による格差が見られた。
- 過去調査と比較すると、運動など健康活動に国民がより積極的で、健康意識の高まりが示唆された。身近なかかりつけ医による予防や健診など、地域医療を充実させ健康社会を総力で目指すことが望まれる。

目次

1. 調査概要と結果サマリー	5
1.1. 調査概要	5
1.2. 本調査の回答者属性	7
2. 新型コロナウイルス感染症の蔓延下での不安と生活の変化	8
2.1. 生活における不安	8
2.2. 生活全般の変化	11
2.3. 医療機関の受診に対する意識	14
2.4. 国のコロナ対策に対する評価	16
3. 医療への高い満足度と期待	17
3.1. 高い満足度の維持（受けた医療・医療全般）	17
3.2. 今後重点を置くべき医療提供体制	21
3.3. 医療全般についての評価	23
4. かかりつけ医と国民の安心感	24
4.1. かかりつけ医の有無	24
4.2. かかりつけ医に望む医療	29
4.3. かかりつけ医へのかかり方	31
4.4. かかりつけ医がない理由	32
4.5. メンタルヘルスの必要性	33
4.6. 医療機関の受診のあり方	34
5. 平等な医療と地域医療への要望	35
5.1. 平等な医療への要望	35
5.2. 経済的理由による受診見合わせ	37
5.3. 地域医療への要望	38
6. 健康意識の向上と新しい医療への期待	39
6.1. 日常の健康管理で気を付けていること	39
6.2. これからの医療の変化への期待	43
7. 最期までの療養の場	45

7.1. 最期までの療養の場.....	45
8. まとめ.....	48
8.1. 新型コロナ蔓延の中での医療機関の対応.....	48
8.2. 高い満足度と医療の充実への期待.....	48
8.3. かかりつけ医の普及.....	49
8.4. アフターコロナにおける健康長寿社会の構築.....	49
9. かかりつけ医（続き）.....	50
9.1. かかりつけ医への受診実態.....	50
9.1.1. 人数・医療機関.....	50
9.1.2. かかりつけ医にかかっている期間.....	50
9.1.3. 受診頻度と診療科.....	51
9.2. かかりつけ医としている理由と見つけ方.....	52
9.3. 新たにかかりつけ医を選ぶときの選び方.....	54
9.4. 大病院受診の際の負担金.....	55
10. その他.....	57
10.1. 健康状態と健康への不安.....	57
10.2. 診療ガイドラインの認知度.....	58
10.3. 母集団との比較.....	59
11. 添付資料.....	62
単純集計付き調査票.....	62

1. 調査概要と結果サマリー

1.1. 調査概要

目的

第1回調査からの継続項目、期間において尋ねる継続項目の両方から国民の医療に関する意識の推移を把握する。同時に、昨今の医療や社会に対する国民の考え方を分析し、国民が安心して暮らせる社会に必要な医療の在り方に資する基礎データを蓄積し提言を行う。

調査手法

- 調査対象 全国の20歳以上の男女 1,212人
- 抽出方法 電子住宅地図を用いた層化3段無作為抽出
- 地点数 157地点
- 調査方法 面接員による個別面接聴取¹
- 調査時期 2020年7月

内容

- 新型コロナウイルス感染症の拡大の中での新たな生活習慣、不安感
- 医療への満足度、今後の医療への期待
- かかりつけ医がいる国民の割合の変化、かかりつけ医の見つけ方に関する意見
- 医療の不平等や格差、医療に関わる要望、国民の健康意識の変化 など

¹ 調査実施者は一般社団法人中央調査社。調査員はマスク、フェイスシールドを使用し、回答者と十分な距離を取るなどの感染防止対策を取ったうえで実施した。調査主体者が日本医師会であることは従来通り回答者に伝えていない。対象者は、地域と市区町村の人口規模を考慮して全国157地点を無作為に抽出し、各地点において全国の人口構成比に合わせて世帯、対象者を抽出した。

表 1 第 1 回～第 7 回調査の実施時期

	実施時期	国民	
		個別面接調査	WEB 調査
第 1 回調査 (報告書 No.50)	2002 年 9 月	N=2,084	—
第 2 回調査 (WP No.137)	2006 年 3 月	N=1,364	—
第 3 回調査 (WP No.180)	2008 年 7 月	N=1,313	—
第 4 回調査 (WP No.260)	2011 年 11 月	N=1,246	—
第 5 回調査 (WP No.331)	2014 年 8 月	N=1,122	N=5,667
第 6 回調査 (WP No.384)	2017 年 4 月	N=1,200	—
第 7 回調査 (WP No.448)	2020 年 7 月	N=1,212	—

1.2. 本調査の回答者属性

表 2 居住地域

	人数	割合
北海道	54	4.5
東北	82	6.8
関東・甲信越・北陸	374	30.9
東京	114	9.4
中部	134	11.1
近畿	210	17.3
中国・四国	113	9.3
九州	131	10.8
総数	1,212	100.0

表 3 加入している医療保険の種類

	人数	割合
国民健康保険	400	33.0
組合健保	333	27.5
協会けんぽ	179	14.8
共済組合	78	6.4
後期高齢者医療制度	208	17.2
その他	2	0.2
覚えていない・わからない	12	1.0
総数	1,212	100.0

表 4 年代

	人数	割合
29歳以下	116	9.6
30～39歳	154	12.7
40～49歳	229	18.9
50～59歳	187	15.4
60～69歳	206	17.0
70歳以上	320	26.4
総数	1,212	100.0

表 5 世帯年収

	人数	割合
300万円未満	253	20.9
300万円～500万円未満	192	15.8
500万円～800万円未満	213	17.6
800万円～1000万円未満	49	4.0
1000万円以上	61	5.0
答えたくない・わからない	444	36.6
総数	1,212	100.0

表 6 男女別

	人数	割合
男性	562	46.4
女性	650	53.6
総数	1,212	100.0

表 7 一番最近の医療機関受診時期

	人数	割合
2週間以内	276	22.8
1ヵ月以内	263	21.7
3ヵ月以内	134	11.1
半年以内	128	10.6
1年以内	163	13.4
3年以内	86	7.1
3年より前	82	6.8
一度も受診したことがない	67	5.5
わからない	13	1.1
総数	1,212	100.0

表 8 同居人数

	人数	割合
一人暮らし	166	13.7
2人	361	29.8
3人	240	19.8
4人以上	443	36.6
答えたくない・わからない	2	0.2
総数	1,212	100.0

表 9 職業

	人数	割合
農林漁業	27	2.2
商工・サービス業	150	12.4
事務職	245	20.2
労務職	267	22.0
自由業管理職	47	3.9
専業主婦・主夫	257	21.2
学生	21	1.7
その他の無職	198	16.3
総数	1,212	100.0

2. 新型コロナウイルス感染症の蔓延下での不安と生活の変化

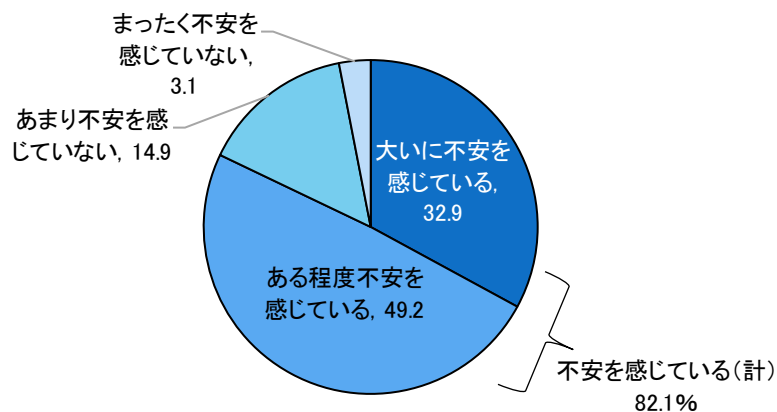
中国武漢に始まり世界中に広がった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2020年1月からわが国でも感染が広がり、2月に指定感染症の2類相当と位置付けられた。その後さまざまな対策が講じられたが、2020年9月20日現在、全国の新型コロナ感染者数は78,657人、死亡者数は1,500人にのぼる。新型コロナウイルス感染症が国民の生活や医療、そして国家経済に与えている影響は甚大であり、国民の不安感や意識の変化についてその現状を把握した。

2.1. 生活における不安

多くの国民が生活様式の変化を余儀なくされ、不安を抱える状態が続いていると思われる。調査では、不安を感じている人の割合は82.1%にのぼった。

図1 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活の不安

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活の不安(n=1,212)



国からの外出自粛要請に対しては回答者の96.8%が「従った」と答え、殆どの国民が外出自粛に従っていた。また、感染拡大防止のために、国や自治体が外出を禁止したり、休業を強制したりする一定の強制力が必要と考える人が全体の93.6%にのぼった。

図 2 国の外出自粛要請に従ったか

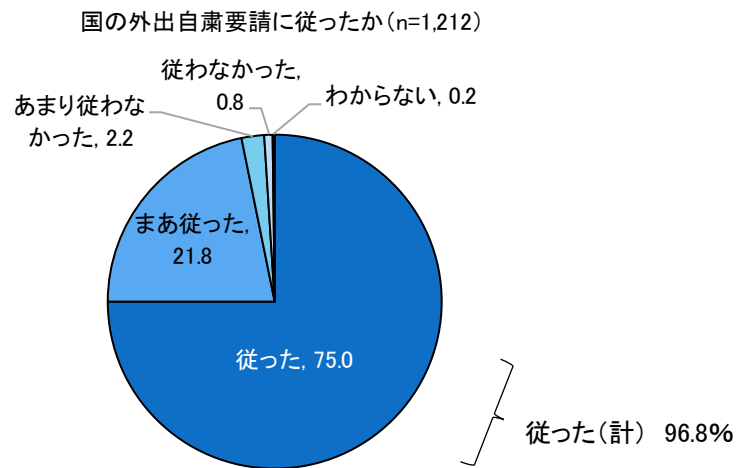


図 3 強制的な外出禁止・休業は必要と思うか

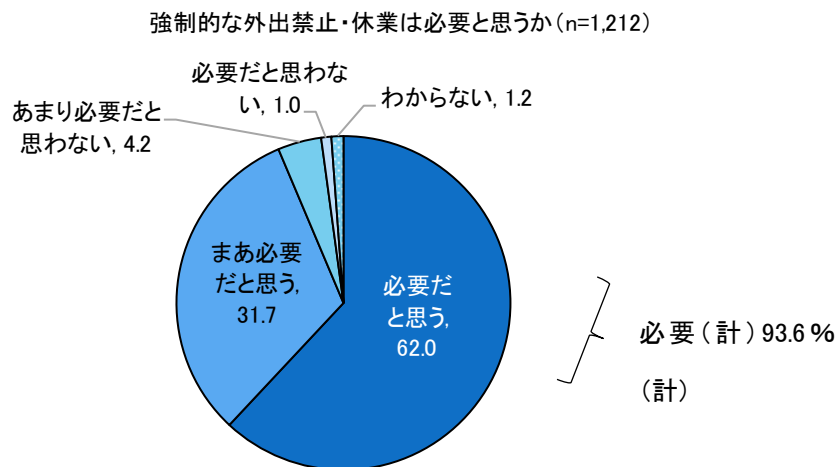
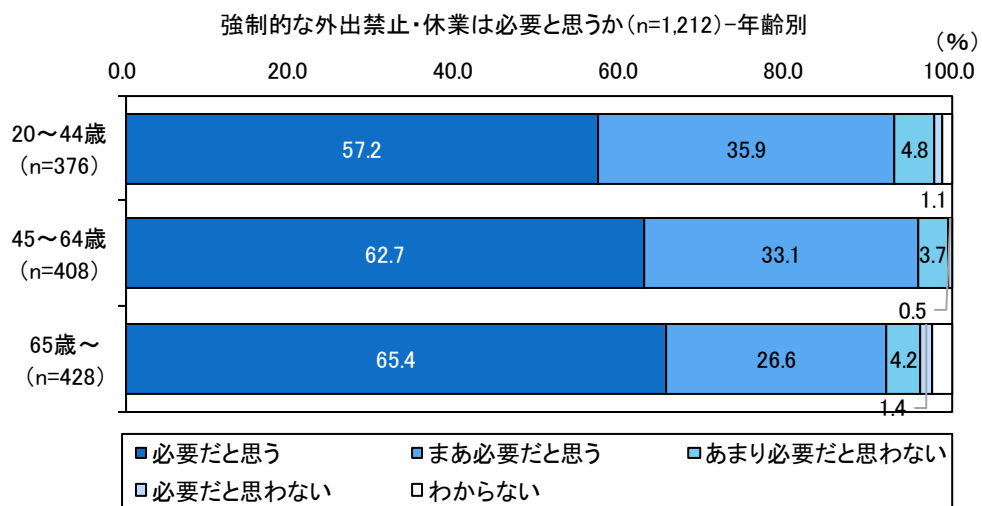


図 4 強制的な外出禁止・休業は必要と思うか-年齢別



2.2. 生活全般の変化

国民の生活様式の変化と健康上の影響について尋ねた。手洗い、うがいなど衛生面に気を付けるようになった人は92.6%であった。外出自粛のため「外出や人との交流が減って精神的不調やストレスを感じるようになった」が35.6%にのぼり、「運動不足で体の不調を感じるようになった」は20.7%であった。不調を感じている割合は女性のほうが男性より高い傾向が見られた。精神衛生上と身体上の健康への影響が危惧され、今後の対策が必要である。

一方、国民の間で医学や医療に対する意識の高まりが見られ、「感染症やワクチンなど医学への関心が高まった」が37.2%、「医療・保健の重要性を感じるようになった」が33.7%を占め、いずれかを選択した人は全体の48.3%であった。また、「自身の健康に対する意識が高まった」という回答も34.6%を占めた。

図5 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活全般の変化（複数回答）

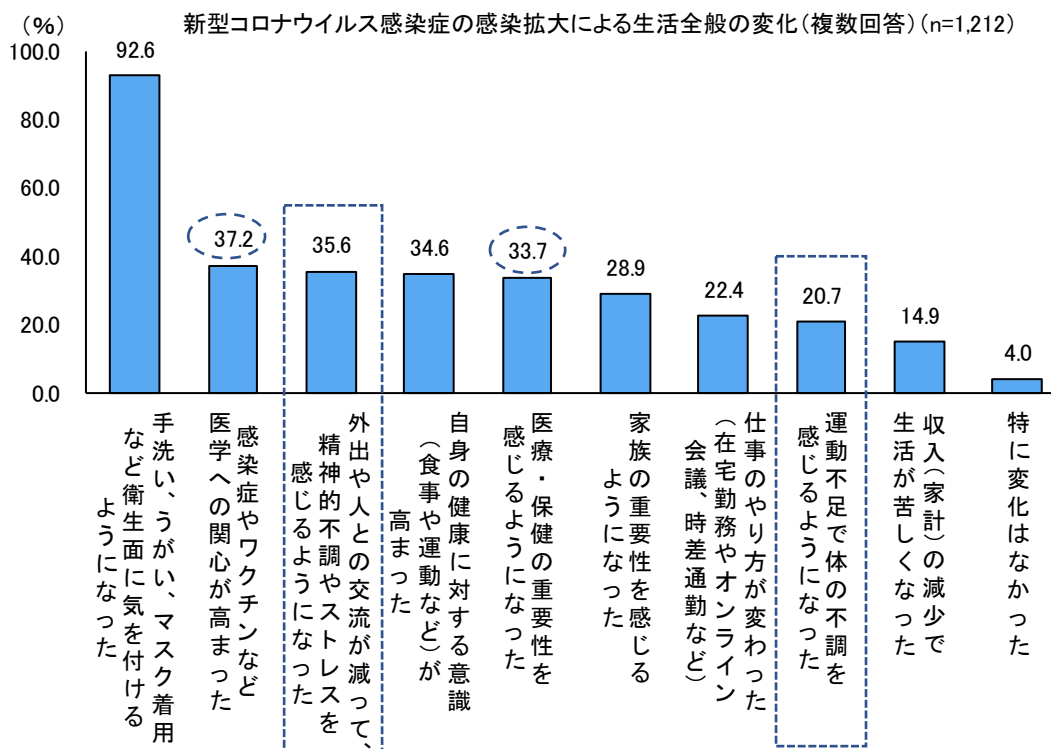


図 6 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活全般の変化-男女別

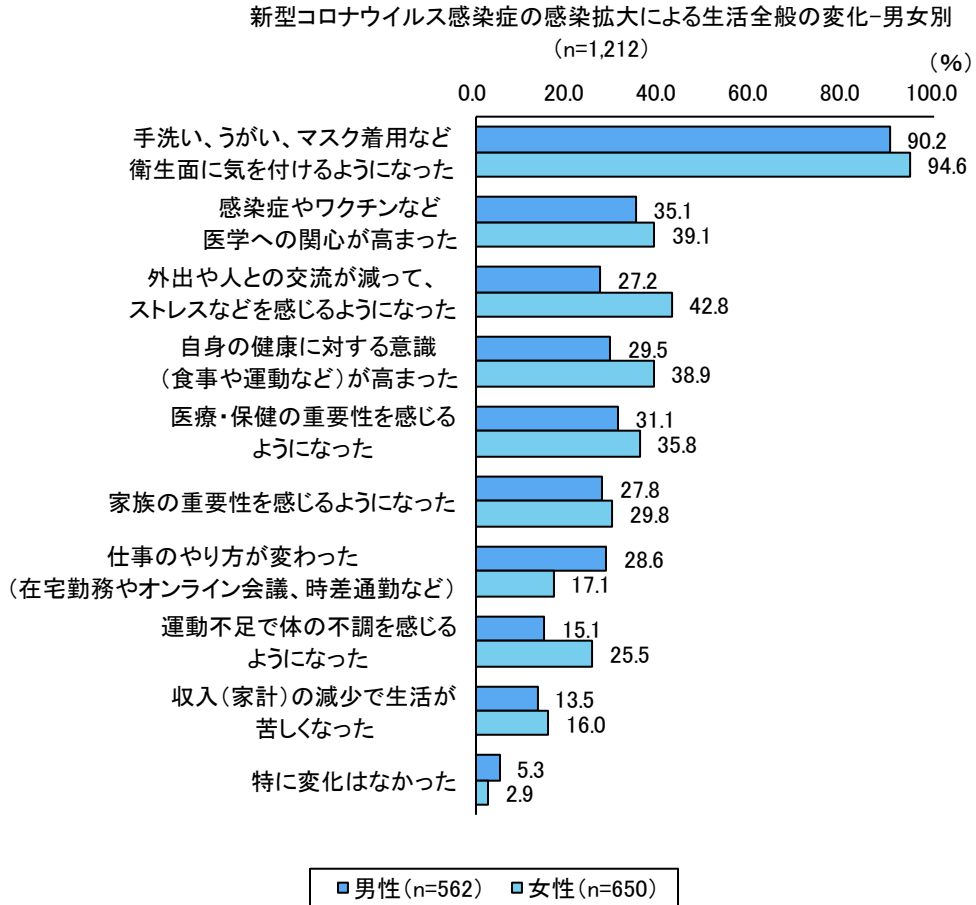
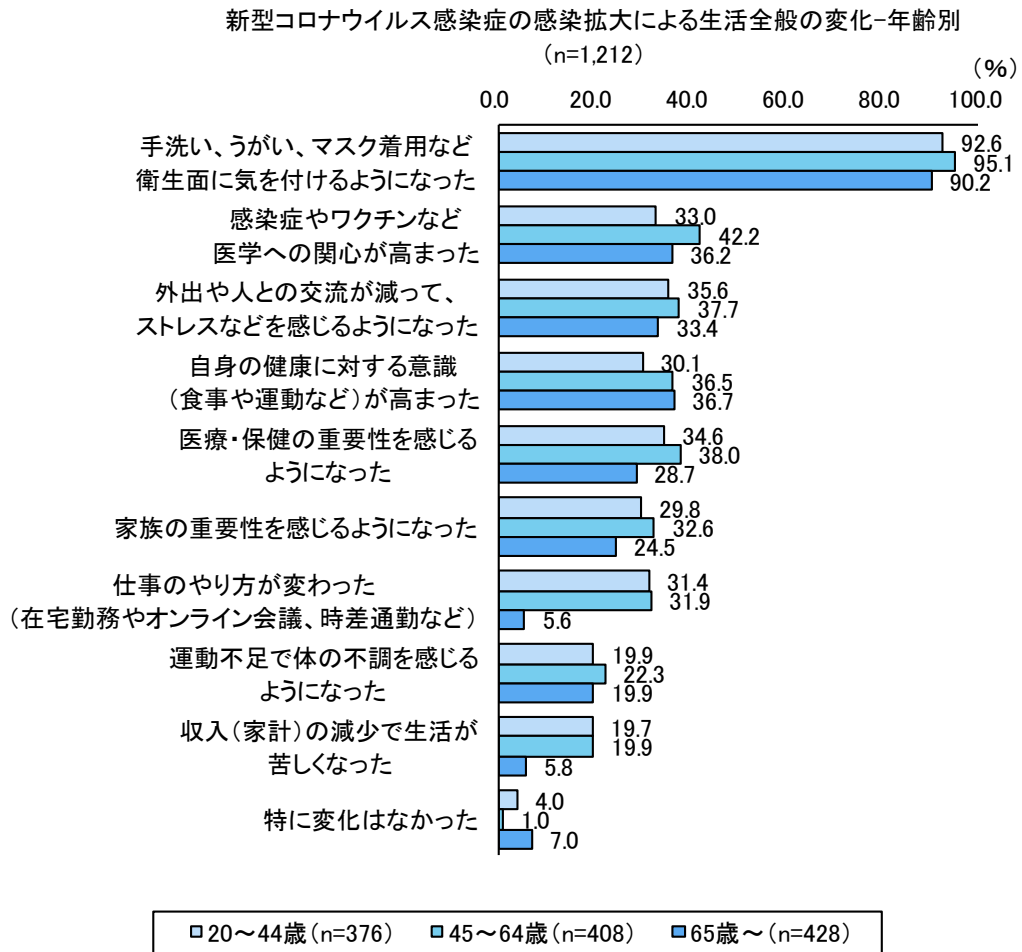


図 7 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活全般の変化-年齢別



2.3. 医療機関の受診に対する意識

医療機関における院内感染の報道などの影響を受け、医療機関の待合室などで感染症に感染する不安を感じる人の割合は69.3%にのぼった。男性に比べて女性のほうが不安感が高く、また女性は40歳代、男性は50歳代で最も不安が高い傾向がみられた。

図 8 医療機関の待合室などで感染症に感染する不安

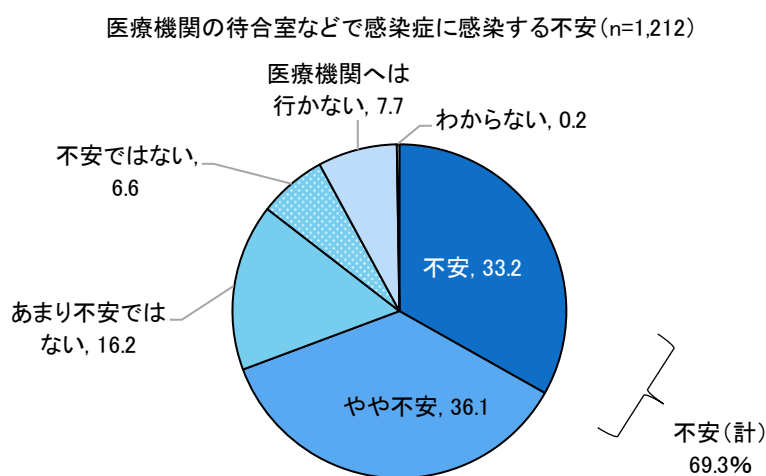
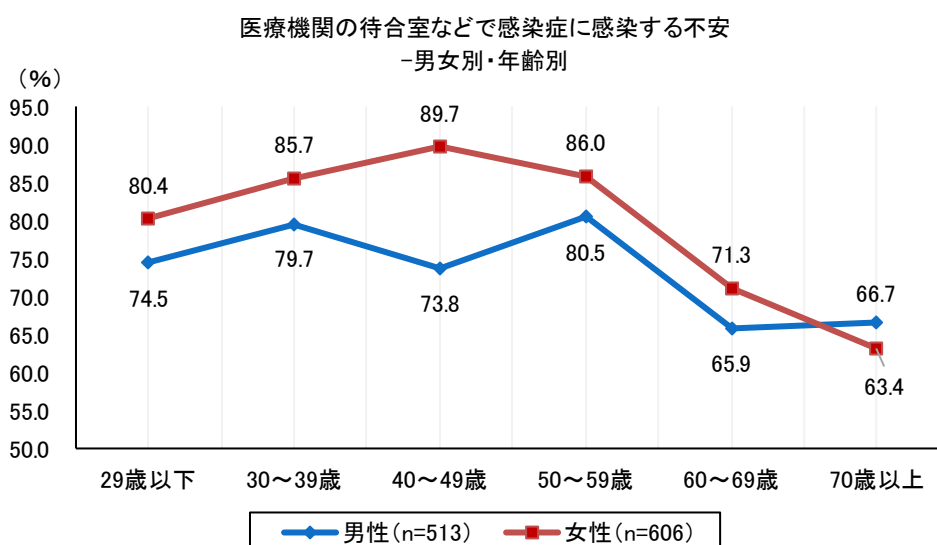


図 9 医療機関の待合室などで感染症に感染する不安-男女別・年齢別



本年4月～5月で受診の必要があった人のみを対象に、対面での受診を控えた人の割合を算出すると14.6%（計）であった。そのうち約半数は慢性疾患などの定期受診であった。一方、オンライン診療²を今後受けたい人は全体の38.1%で約4割であった。若い人が高く、高齢者で低い傾向がみられた。

図 10 4月から5月の受診の形（複数回答）

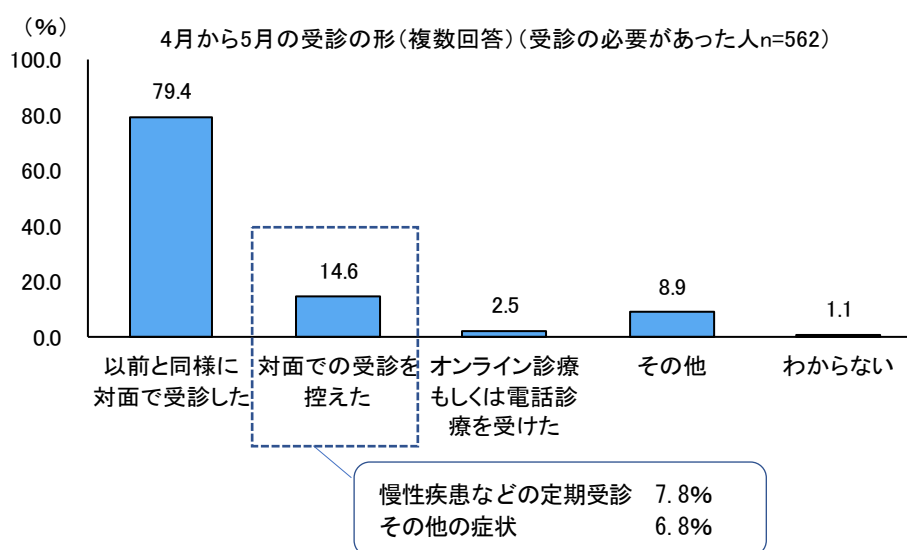
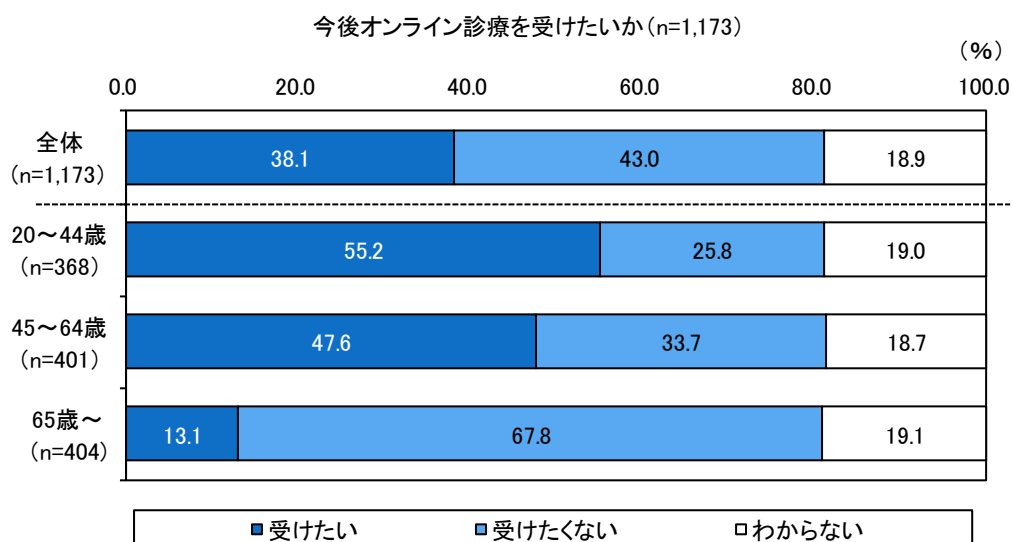


図 11 今後オンライン診療を受けたいか



² 本調査ではオンライン診療を、スマートフォン、タブレット、パソコンなどを用いて、インターネット上の画面越しに自宅で医師の診療を受けることと定義した。

2.4. 国のコロナ対策に対する評価

新型コロナウイルス感染症の感染状況や対策について国は迅速にわかりやすい情報提供を行ったかについて、38.4%（計）の国民は情報提供が迅速に行われたと回答したが、58.6%（計）は迅速ではなかったと回答した。今冬の感染症対策に向けてタイムリーな情報提供が求められている。一方、諸外国の状況と比較した日本のコロナ対策に対する評価を尋ねると、63.1%が評価する（大いに評価+ある程度評価）と答えており、比較的高い評価であることが示された。

図 12 新型コロナウイルス感染症に関する情報提供の迅速性

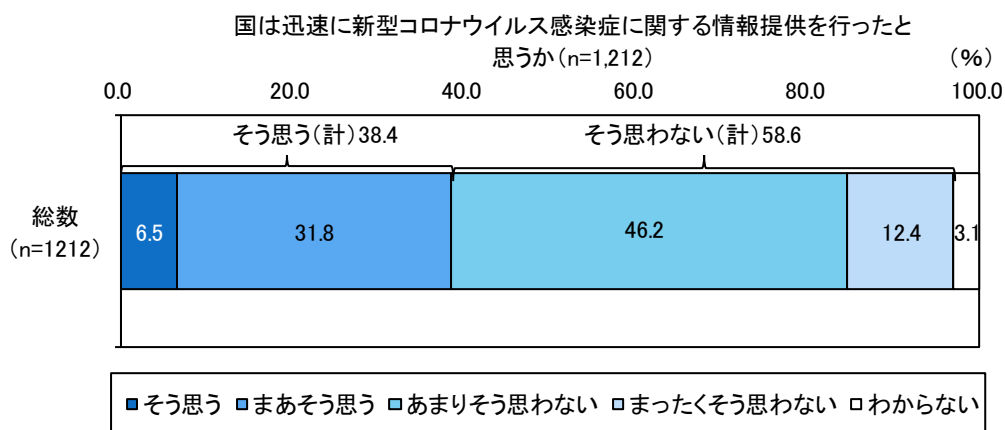
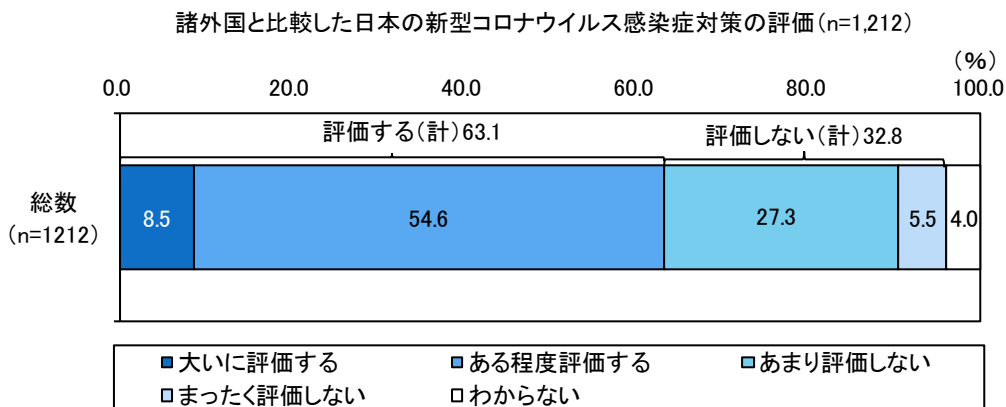


図 13 諸外国と比較した日本の新型コロナウイルス感染症対策の評価

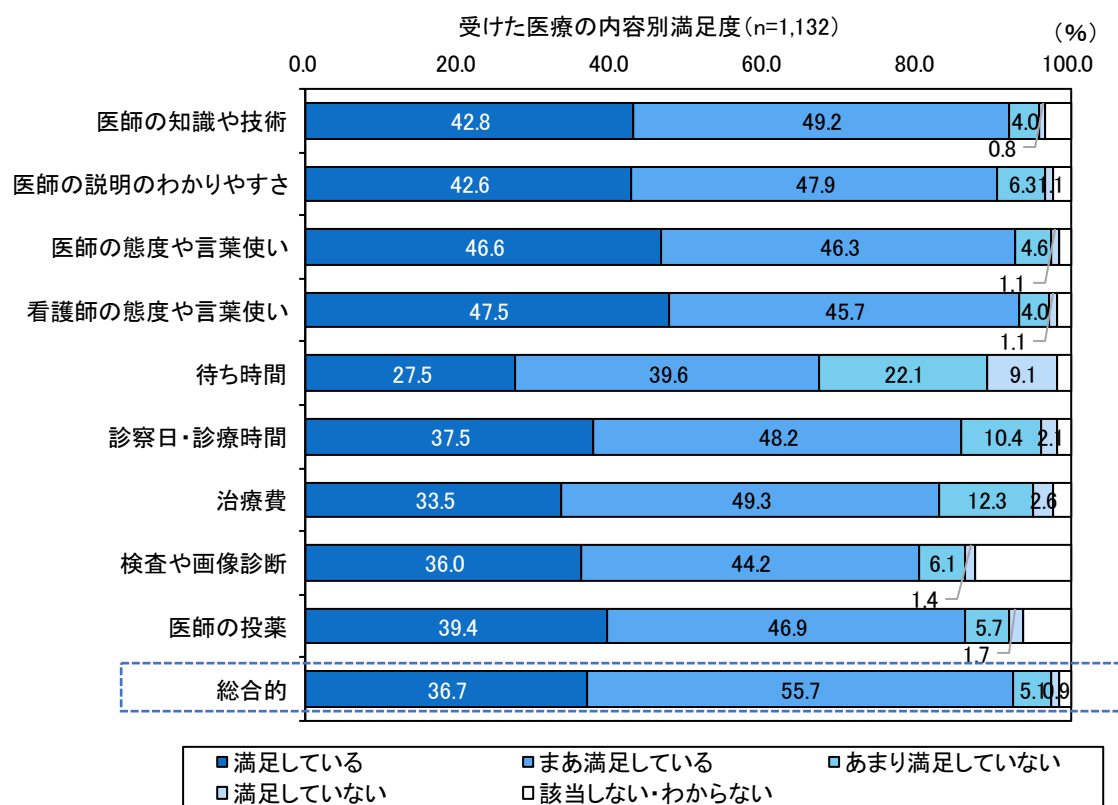


3. 医療への高い満足度と期待

3.1. 高い満足度の維持（受けた医療・医療全般）

受けた医療の満足度は、待ち時間などについてはやや低いものの、総合的には92.4%が満足（満足+まあ満足）とし、高い割合を示した。本調査の満足度に関する設問では、第1回調査より中間回答（どちらとも言えない等）を設けていない影響があるものの、高い満足度を維持している³。「まあ満足している」を除いた「満足している」は36.7%であった。

図 14 受けた医療の内容別満足度 (n=1,132)



³ 二木立 「日医総研『日本の医療に関する意識調査』から何が読み取れるか？」日本医事新報 2017年10月7日号(4876号)では、「回答者が医療に好意的な意見を持つ方に偏っていることが考えられ、高い数値は少し割り引く必要があるかもしれません。しかし、過去9年間に2つの医療満足度が共に上昇し続けているという「方向」は間違いないと思います。」と指摘されている。

受けた医療ではなく、日本の医療全般についても76.1%が満足していると回答し、高い満足度の傾向が続いている。また、満足の合計でなく、「まあ満足」を除いた「満足」の割合は、受けた医療についても医療全般についても増加傾向が示されている。背景として、国民の間で医療や医療者への理解が向上していることが推測される。

図 15 受けた医療の総合満足度、日本の医療全般の満足度

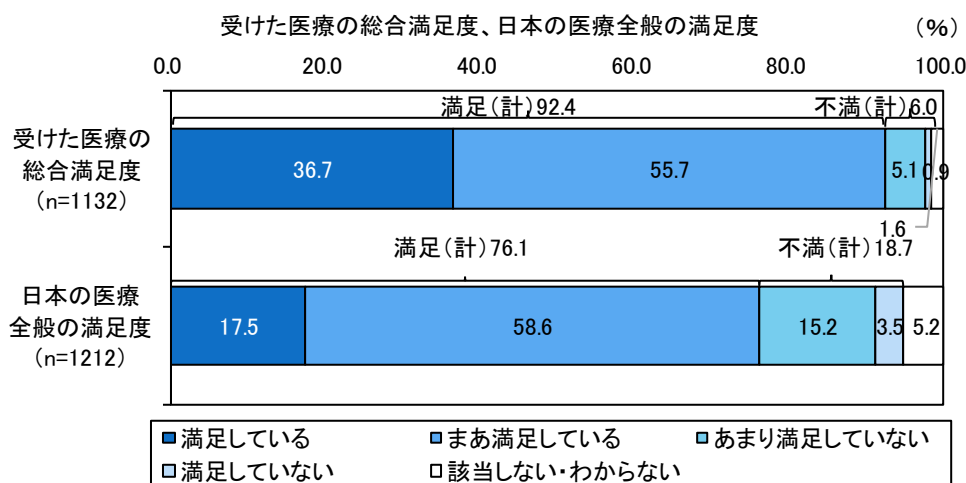
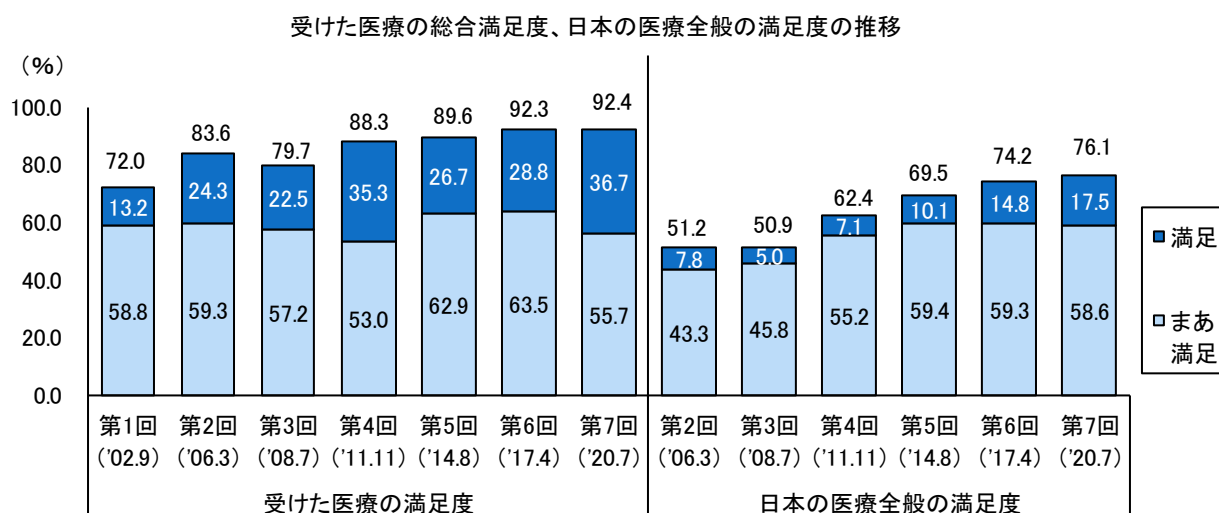


図 16 受けた医療の総合満足度、日本の医療全般の満足度の推移



※第1回は日本の医療全般の満足度は調査していない

受けた医療に満足していない最大の理由は、医療機関の待合室などにおける待ち時間であった。続いて、治療費、医師の説明であった。一方、医療全般に対する満足度について、地域の人口規模別にみると、小都市（人口10万人未満の都市）でやや低い傾向がみられ、医療へのアクセスの影響が考えられる。

図 17 受けた医療に満足していない理由の推移（満足していない人が対象）

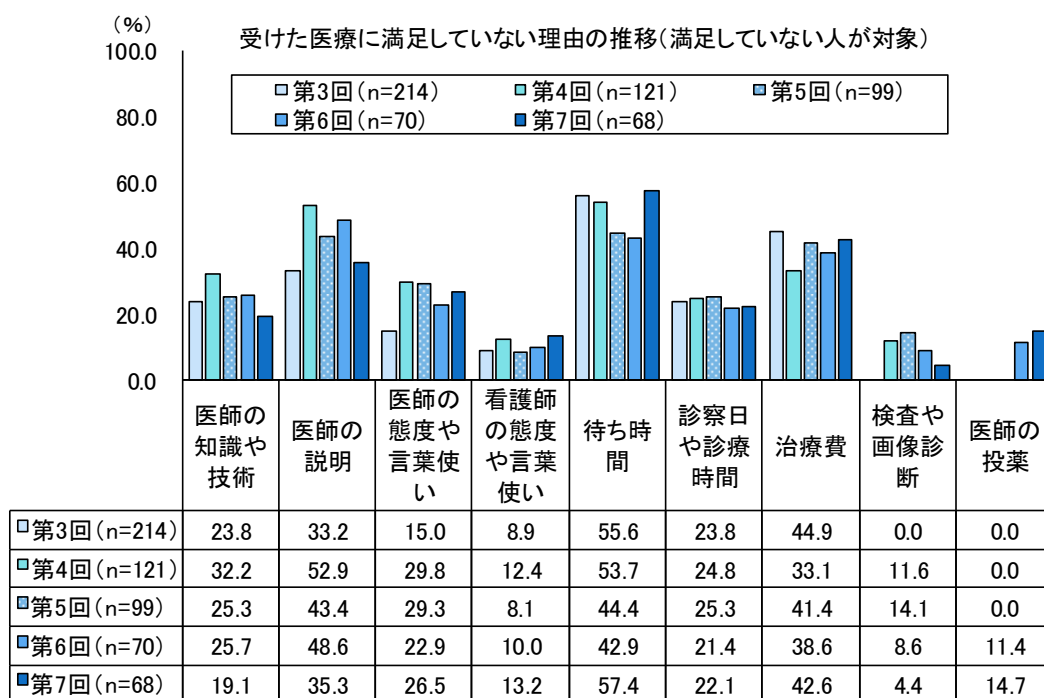
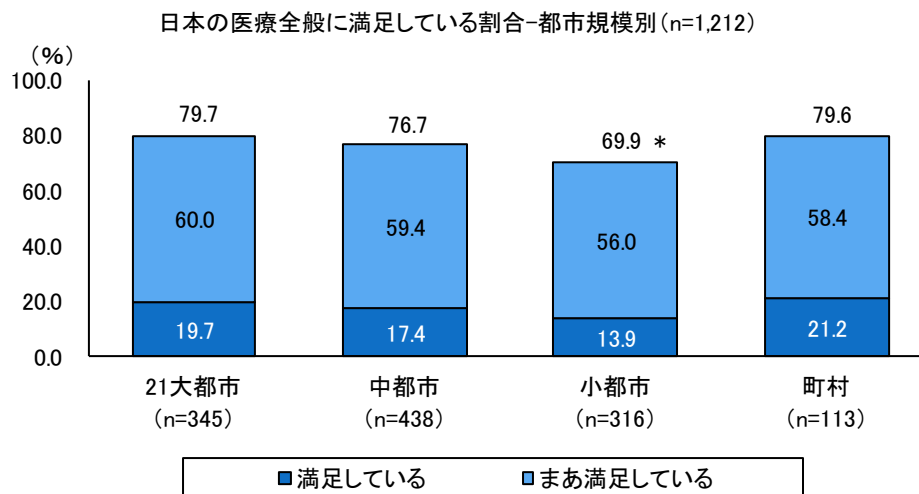


図 18 日本の医療に満足している割合 —都市人口規模別



個別状況に応じた医療とこころのケア

患者一人ひとりの個別状況に応じた医療やこころのケアを行う医療が行われているかについては、「そう思う（計）」の割合の増加傾向がみられてきたが、前回調査からは大きな変化がみられなかった。

図 19 患者一人ひとりの性格や立場、本人の希望といった個別状況に応じた医療が行われていると思う人の割合の推移

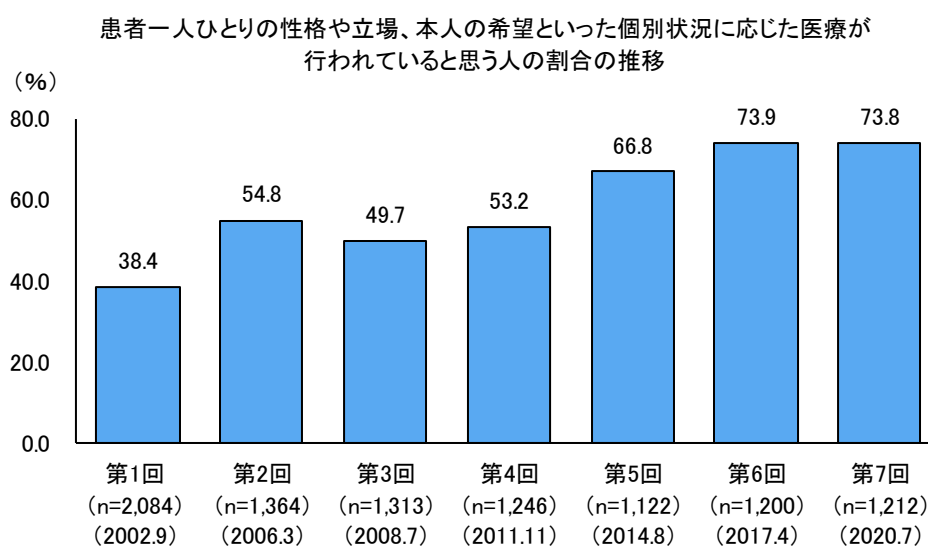
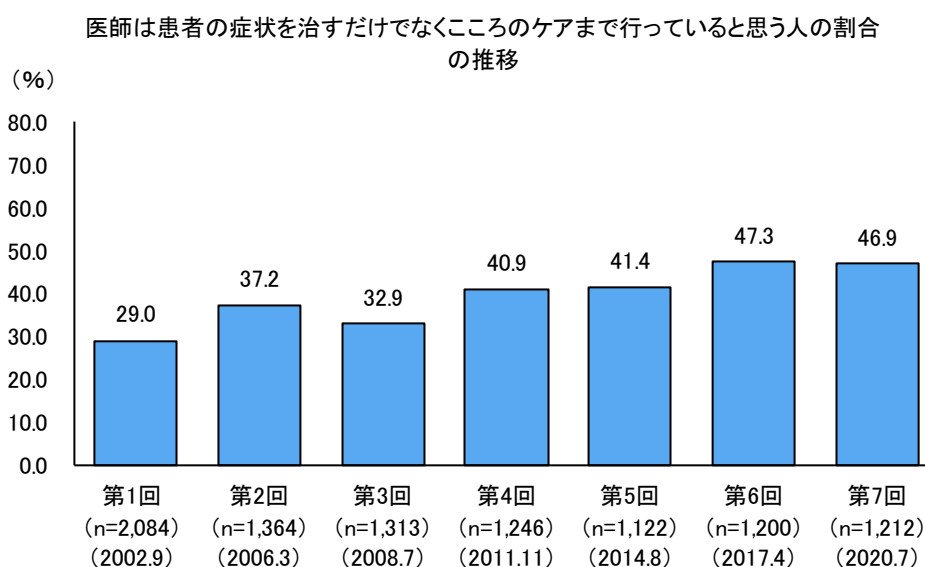


図 20 医師は患者の症状を治すだけでなくこころのケアまで行っていると思う人の割合の推移



3.2. 今後重点を置くべき医療提供体制

今後、重点を置くべき医療体制は、夜間休日の診療・救急医療体制の整備で、続いて感染症や災害に対応した医療提供体制の充実（第7回調査での新規に追加した項目）であった。高齢者などが長期入院するための施設の整備は3番目に重要と認識されていた。3つまでの選択としている中、新規項目追加の影響があるものの、順位に関して過去調査から大きな変化は見られなかった。

図 21 今後重点を置くべき医療提供体制（3つまで）

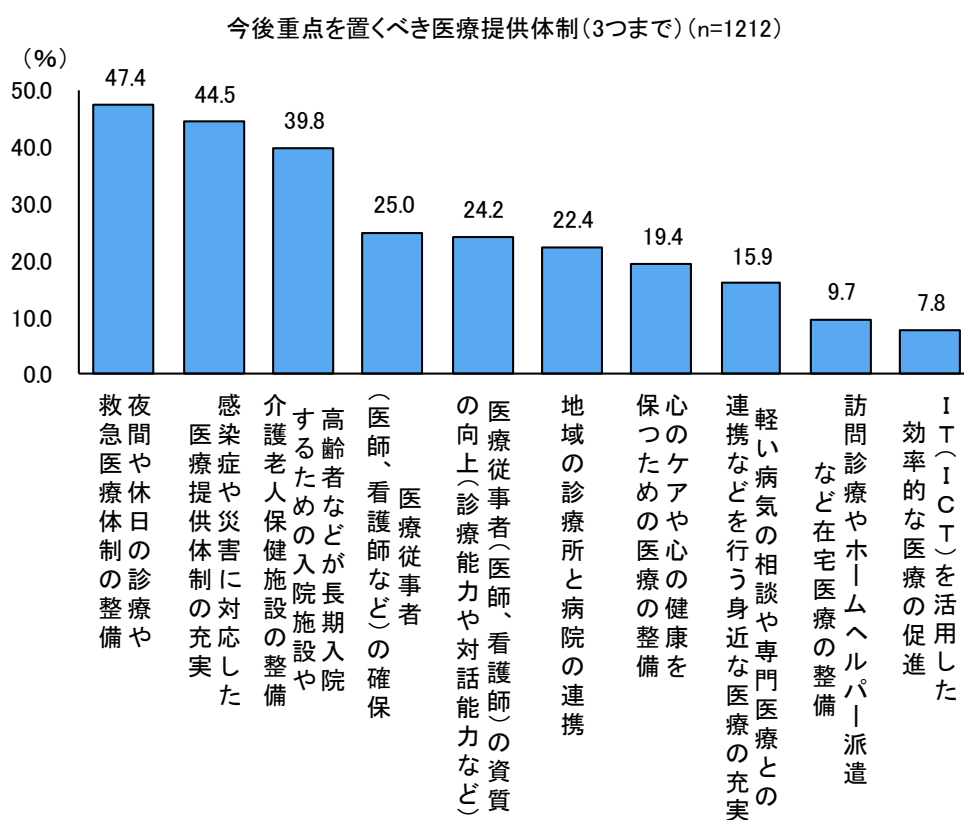
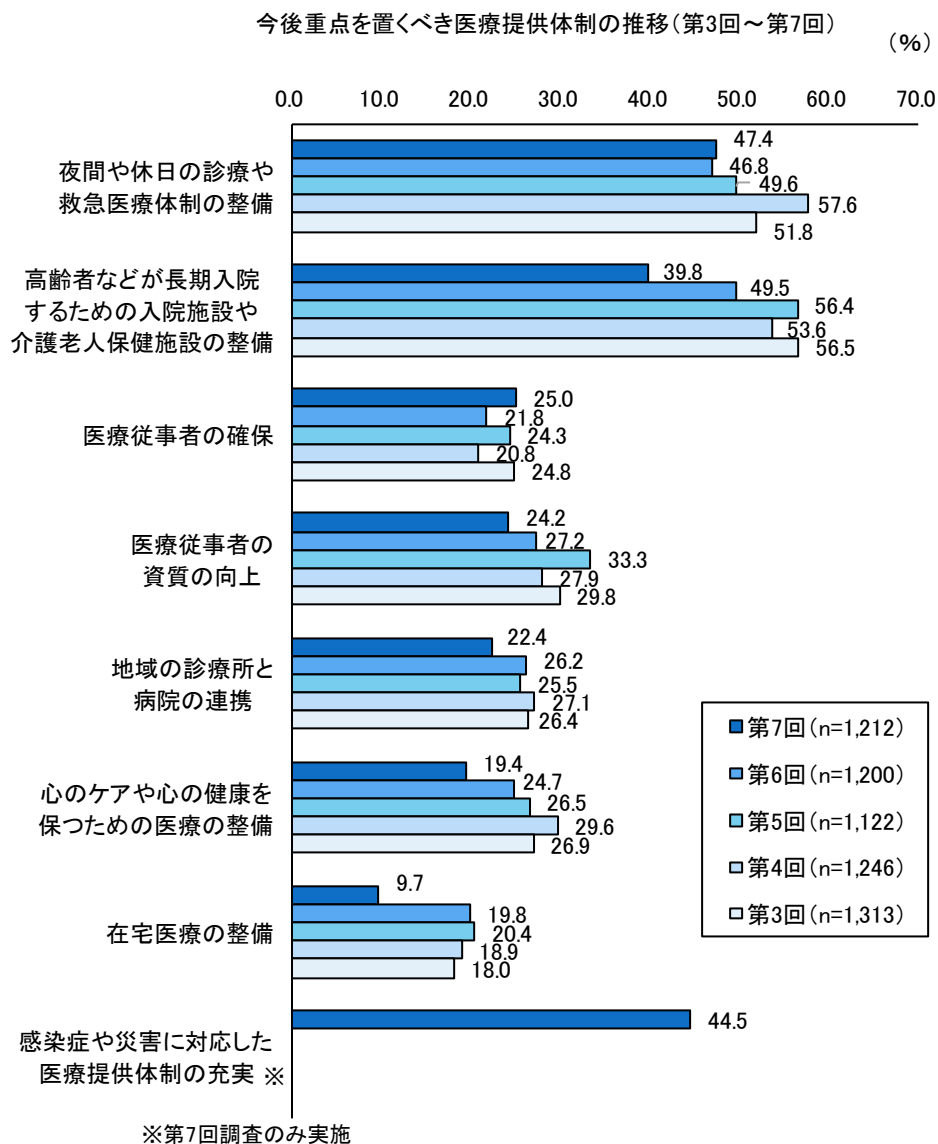


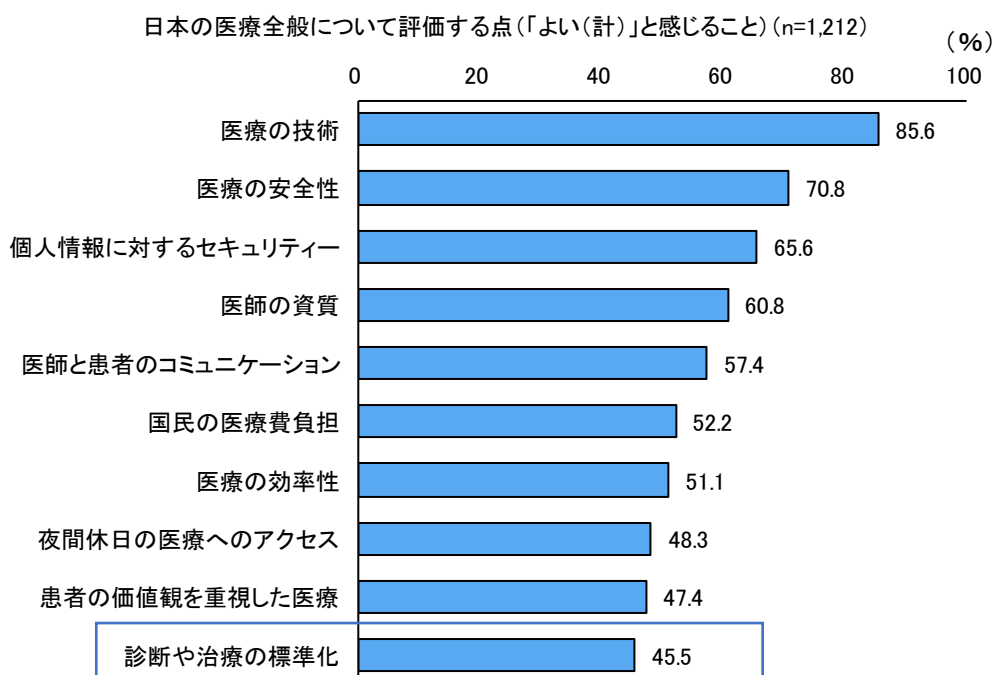
図 22 今後重点を置くべき医療提供体制の推移（第3回～第7回）



3.3. 医療全般についての評価

日本の医療全体について国民が最も評価する点は医療の技術であった。続いて医療の安全性、個人情報のセキュリティであった。一方で、診断や治療の標準化についての評価は低い傾向が示された。

図 23 日本の医療全般について評価する点



4. かかりつけ医と国民の安心感

※かかりつけ医については9章に続きを掲載

4.1. かかりつけ医の有無

コロナ禍でかかりつけ医の役割が一層重要となる中、かかりつけ医がいる国民の割合は全体の55.2%であった。いないがいるとよいと思う人は18.1%であった⁴。既知の通り、かかりつけ医がいる人の割合には年齢差があり70歳以上では83.4%であった。

図 24 かかりつけ医の有無

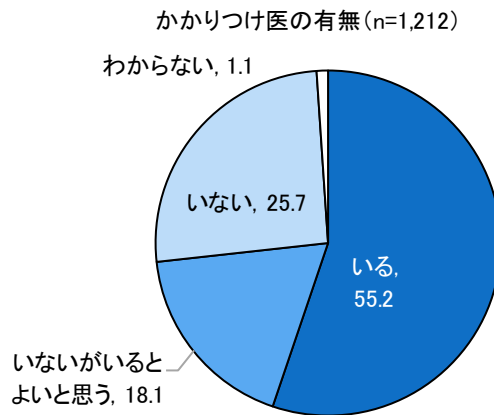
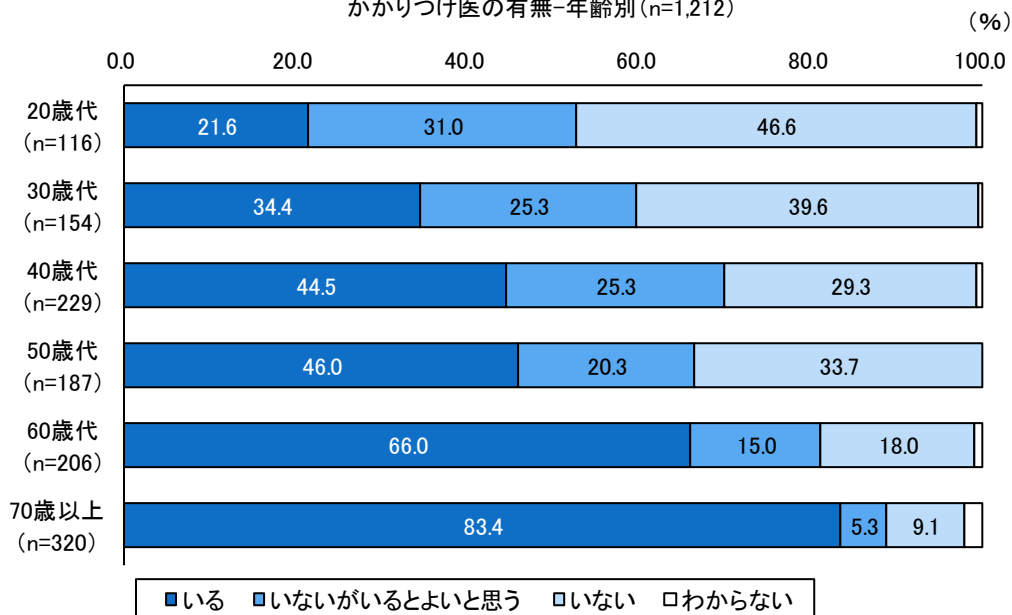


図 25 かかりつけ医の有無-年齢別
かかりつけ医の有無-年齢別 (n=1,212)



⁴ かかりつけ医の定義は「何でも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要なときには専門医を紹介でき、身近で頼りになる総合的な能力を有する医師」としている（日本医師会・四病院団体協議会合同提言）。

かかりつけ医がいる国民の割合（55.2%）は過去の調査から大きな変化が見られなかった。男女別では、男性が49.1%、女性が60.5%で、女性のほうがかかりつけ医を持つ人の割合が高い傾向がみられた。

図 26 かかりつけ医の有無⁵の推移 -第3回～第7回

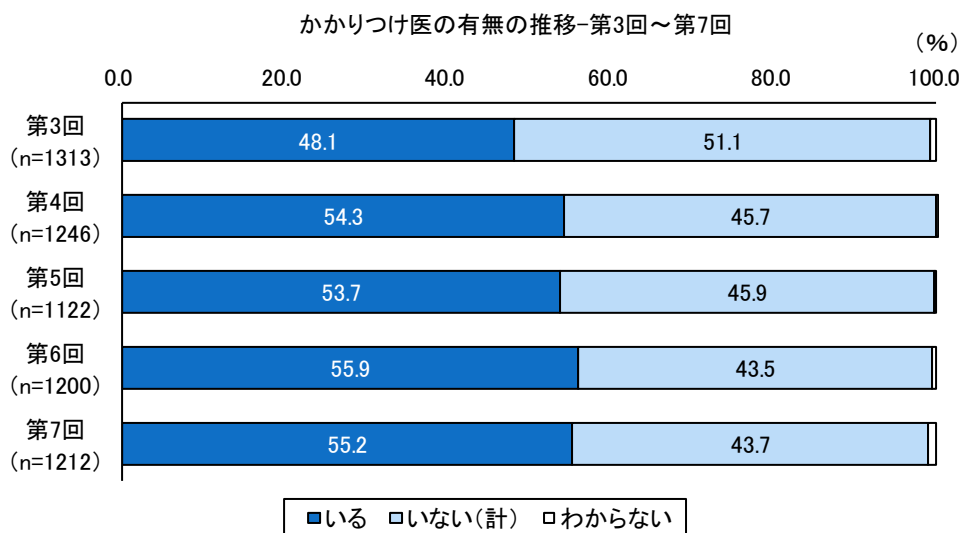
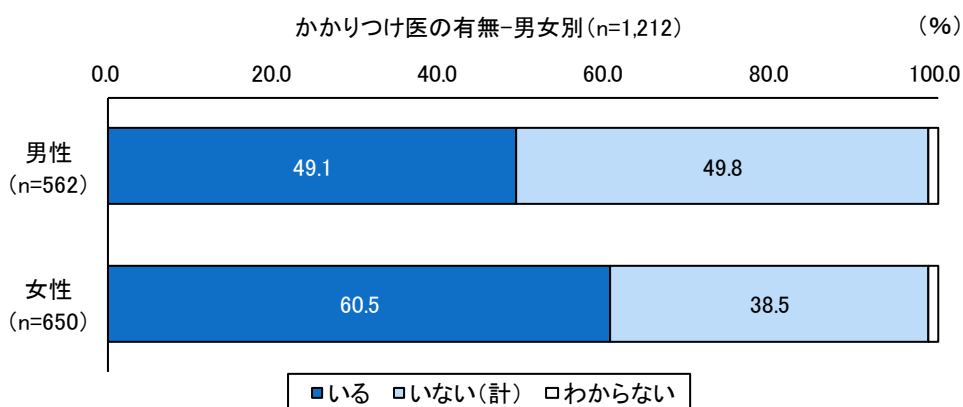


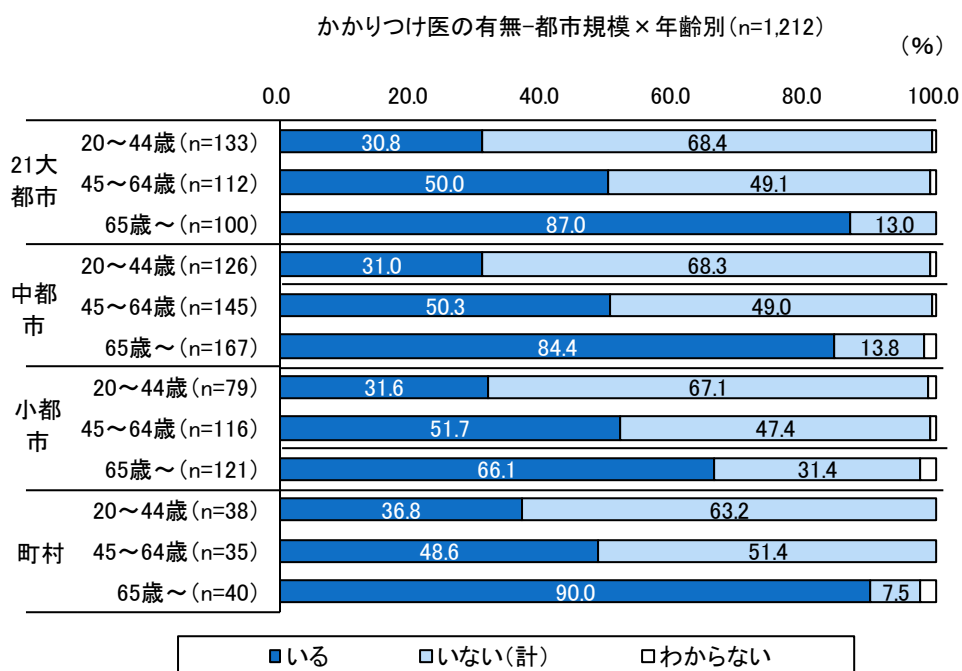
図 27 かかりつけ医の有無-男女別



⁵ かかりつけ医の定義は、第3回、第4回では「あなたの病気や健康度を総合的に診療してくれる身近な医師」、第5回では「一般に健康のことを何でも相談でき、必要なときは専門の医療機関へ紹介してくれる、身近にいて頼りになる医師」、第6回以降は前頁脚注に記載。

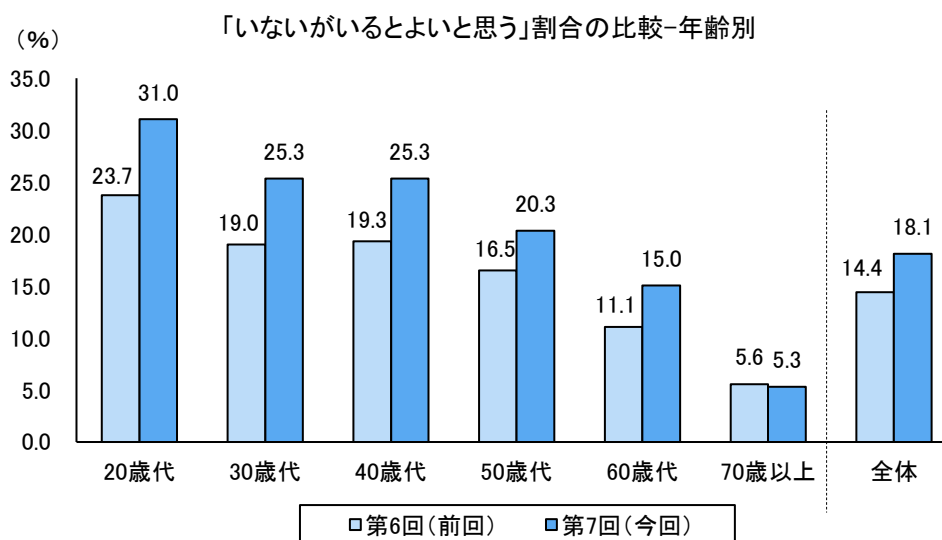
都市規模別、年齢別で見ると、いずれの都市規模でも45歳未満ではかかりつけ医がいる割合は3割台であるが、45～64歳になると5割前後に増える。65歳以上では、小都市以外では8割以上がかかりつけ医がいると回答した。

図 28 かかりつけ医の有無-都市規模×年齢別



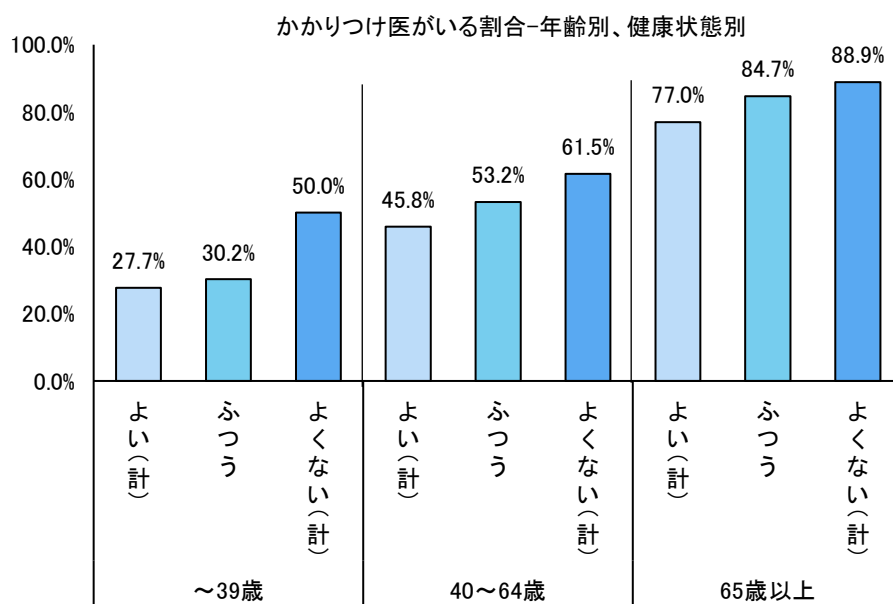
かかりつけ医はいないが、いるとよいと思っている人の割合は全体の18.1%で、第6回調査の14.4%より割合が増加していた。年齢別にみると、もともとかかりつけ医がいる人が少ない若い世代で、割合の増加がより大きい傾向がみられた。新型コロナウイルスの感染拡大により、かかりつけ医を必要とする人が増加していると推測される。

図 29 「かかりつけ医はいないが、いるとよいと思う」人の割合-前回調査との比較



かかりつけ医がいる人の割合を年齢別、健康状態別でみると、65歳以上では健康状態がよい人の間でも77.0%がかかりつけ医がいると回答した。しかしながら、39歳以下では健康状態がよい、あるいはふつうの人の中でかかりつけ医がいる人は3割程度であった。

図 30 かかりつけ医がいる割合-年齢別、健康状態別



4.2. かかりつけ医に望む医療

かかりつけ医に望む医療は、専門医への紹介が 92.2%と高く、続いて、患者情報を紹介先に適時適切に提供すること（87.7%）、どんな病気でも診療可能であること（85.2%）であった。いずれもかかりつけ医への高い期待を示唆している。

図 31 かかりつけ医に望む医療や体制（n=1,212）

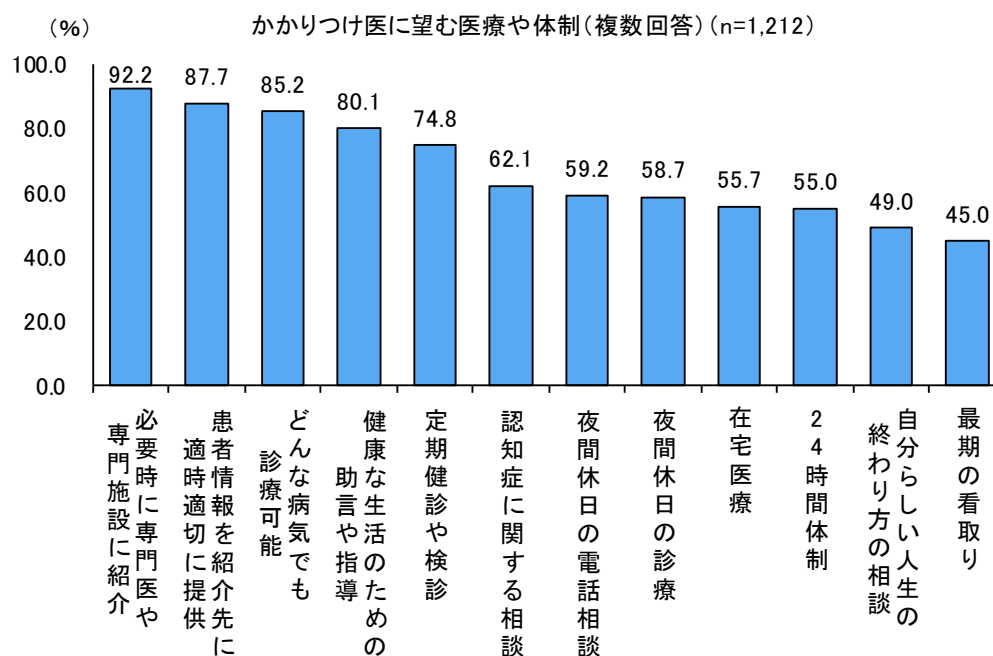
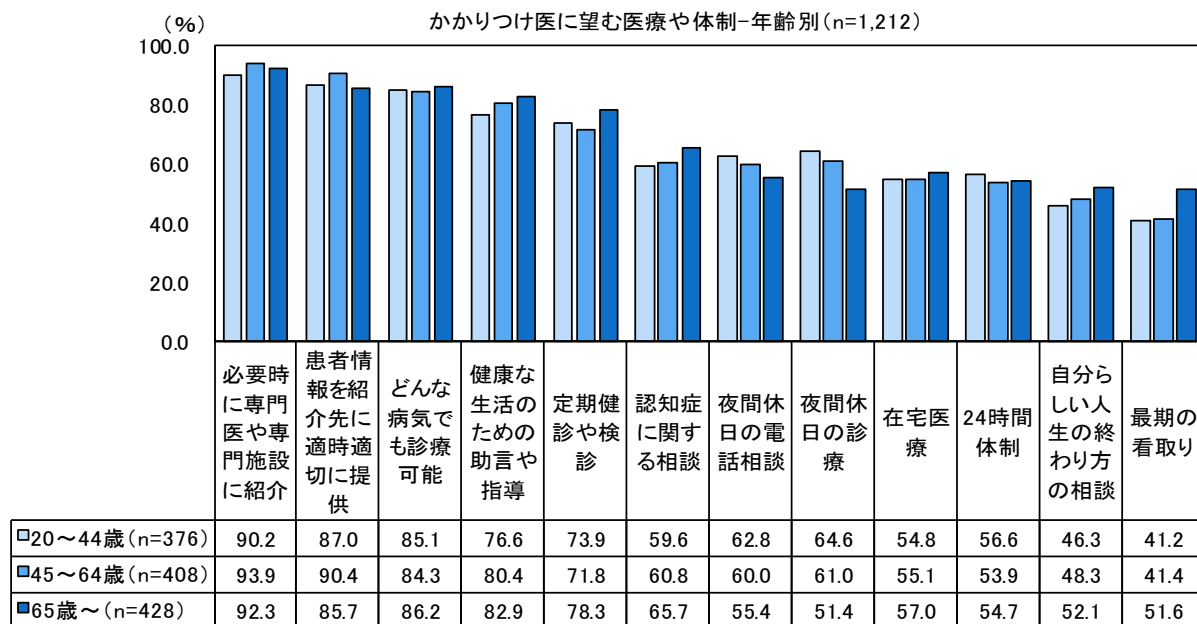


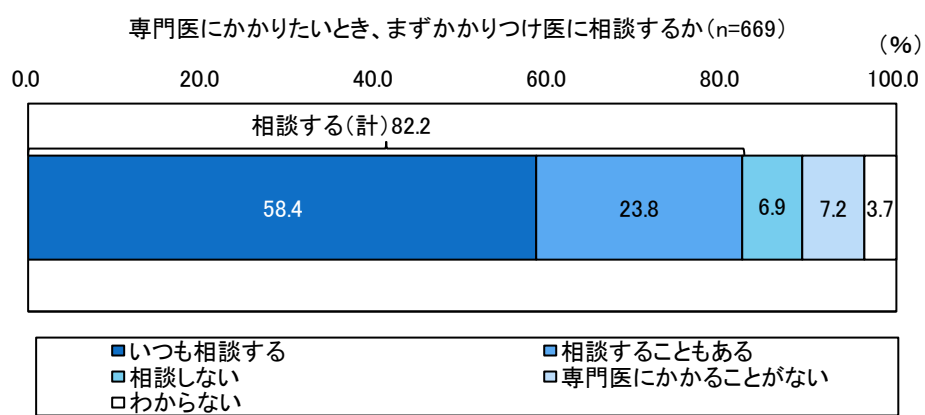
図 32 かかりつけ医に望む医療や体制-年齢別



4.3. かかりつけ医へのかかり方

かかりつけ医を持っている人を対象に「専門医にかかりたいときに、まずかかりつけ医に相談するか」を尋ねると、相談する（計）が82.2%を占め、かかりつけ医機能が果たされていることを示した。ただし、いつも相談するは58.4%で約6割にとどまった。

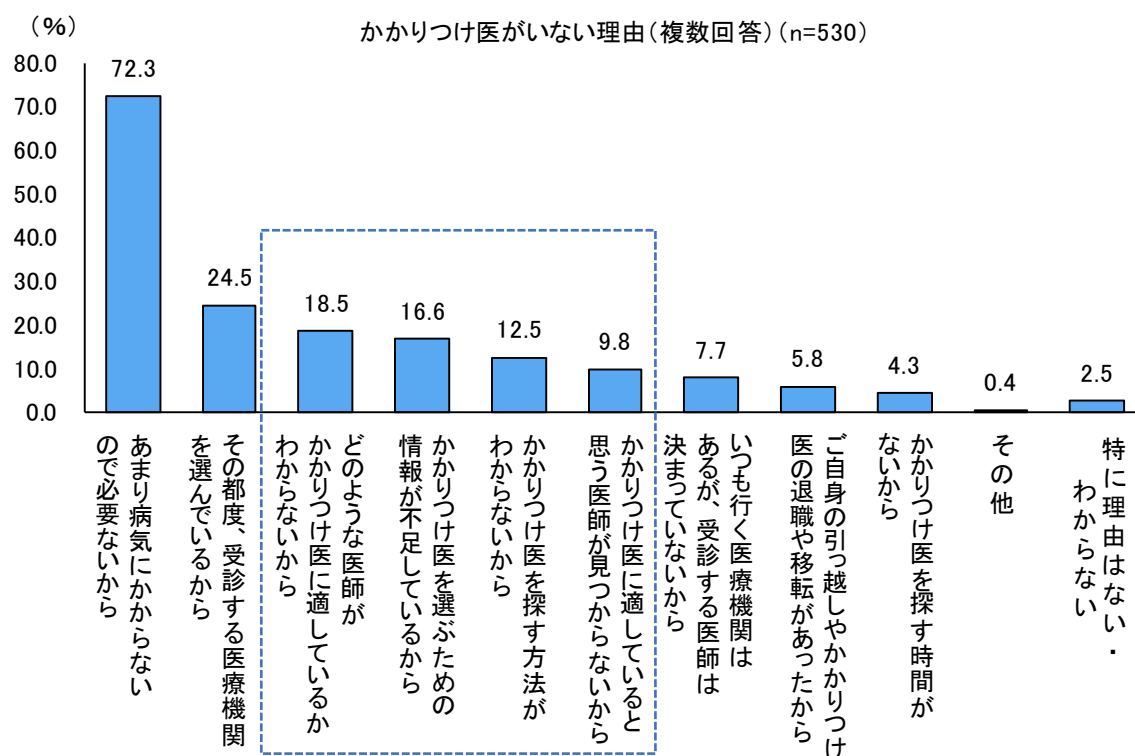
図 33 専門医にかかりたいとき、まずかかりつけ医に相談するか



4.4. かかりつけ医がない理由

かかりつけ医を持っていない人の理由は、必要ないと考える人以外では、どのような医師がかかりつけ医に適しているのかわからないなど、情報不足が大きな要因となっていた。

図 34 かかりつけ医がない理由（複数回答）



4.5. メンタルヘルスの必要性

新型コロナウイルス感染症による外出自粛などに伴いメンタルヘルスの必要性が高まっているが、精神的な不調時に相談できる専門家がいる人は全体の 30.4%にとどまった。かかりつけ医がいる人では 49.3%で、かかりつけ医が一定程度その役割を果たしていた。精神的な不調に対応する専門分野の診療体制の拡充が必要な状況である。

図 35 精神的な不調時に身近で相談できる医師や専門家の有無

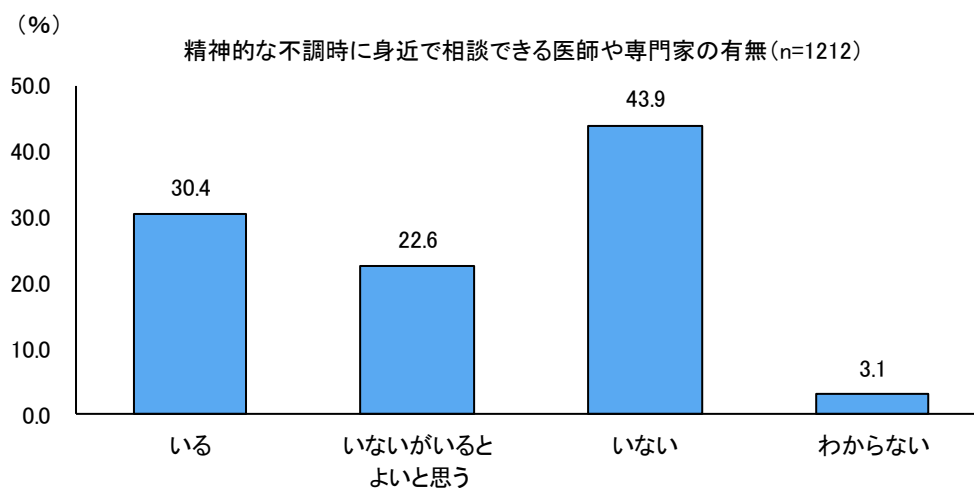
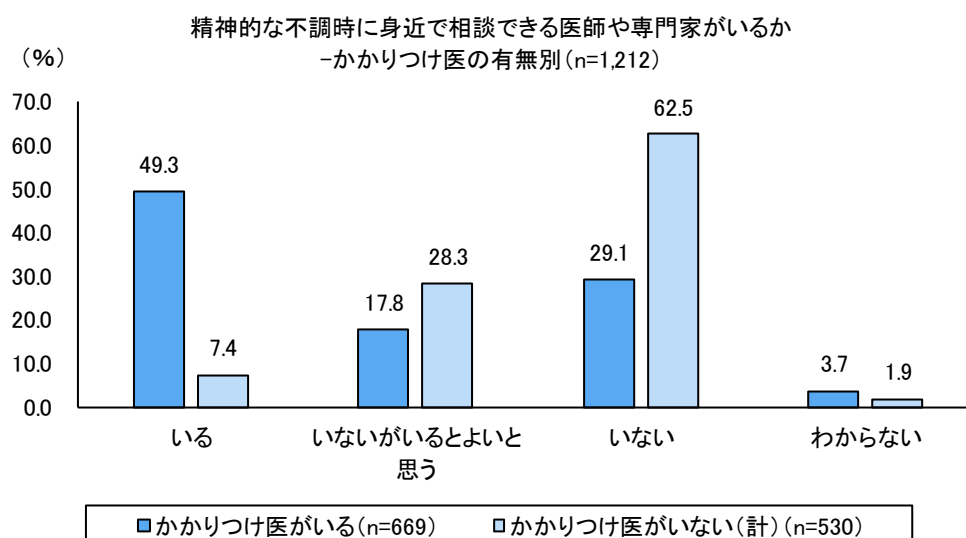


図 36 精神的な不調時に身近で相談できる医師や専門家の有無-かかりつけ医の有無別



4.6. 医療機関の受診のあり方

医療機関の受診のあり方として、最初にかかりつけ医など決まった医師や医療機関を受診し、その医師の判断で専門医療機関を受診することに賛成の割合は65.7%であった。この割合は前回調査より僅かながら減少しているものの、かかりつけ医の役割の意義を理解している人は約7割にのぼった。

- | |
|---|
| A 病気の程度にかかわらず、自分の判断で選んだ医療機関を受診する |
| B 最初にかかりつけ医など決まった医師や医療機関を受診し、その医師の判断で必要に応じて専門医療機関を紹介してもらい受診する |

図 37 医療機関受診のあり方について

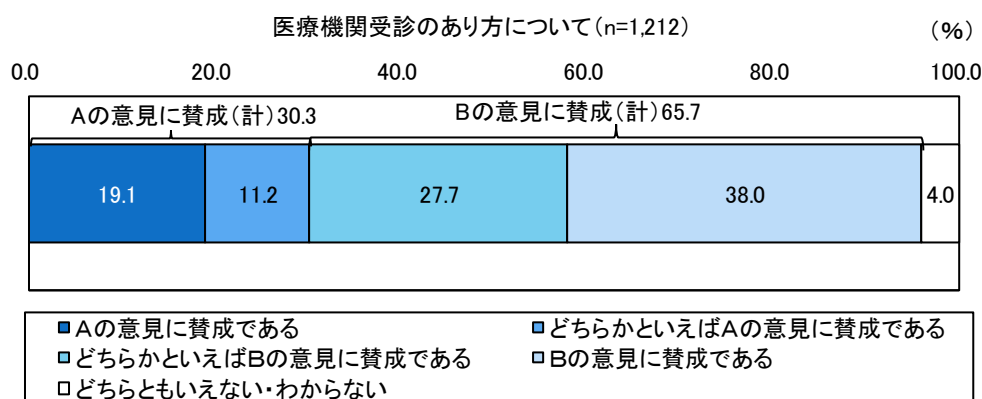
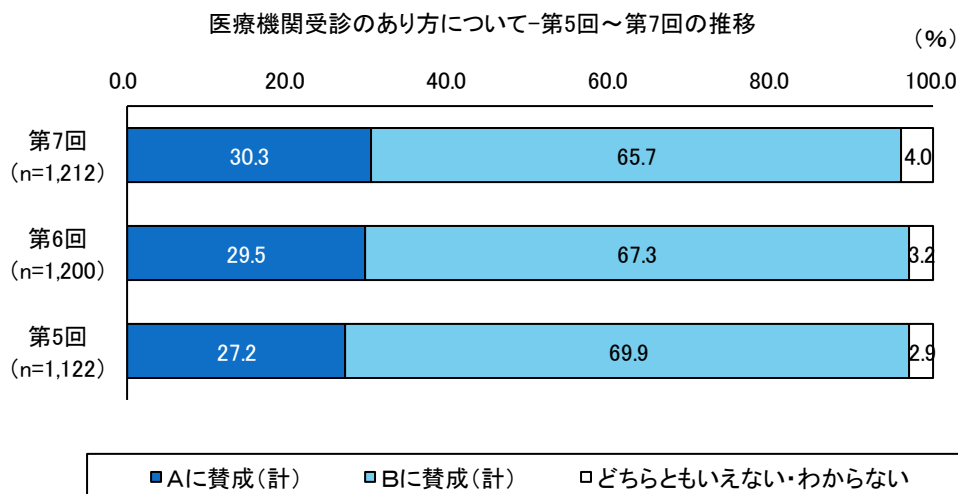


図 38 医療機関受診のあり方について-第5回～第7回の推移



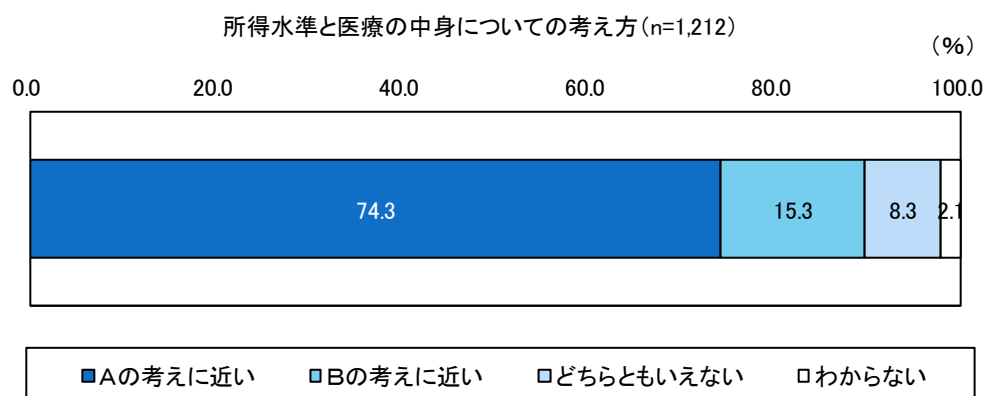
5. 平等な医療と地域医療への要望

5.1. 平等な医療への要望

所得水準と受ける医療の中身については、所得に関わらず平等な医療を受けたいという要望を持つ人の割合は74.3%で、第3回の調査から継続して変化が見られなかった。等価所得⁶が高い層では割合が低下しているが、多くの国民が平等医療に対する要望を持っていることを示唆している。

- | |
|--|
| A 所得の高い低いにかかわらず、受けられる医療の中身(治療薬や治療法)は同じであるほうがよい |
| B 所得の高い低いによって、受けられる医療の中身(治療薬や治療法)が異なることはやむを得ない |

図 39 所得水準と受ける医療の中身についての考え方



⁶ 等価所得はここでは、世帯所得/世帯員数の平方根としている。

図 40 所得水準と受ける医療の中身についての考え方

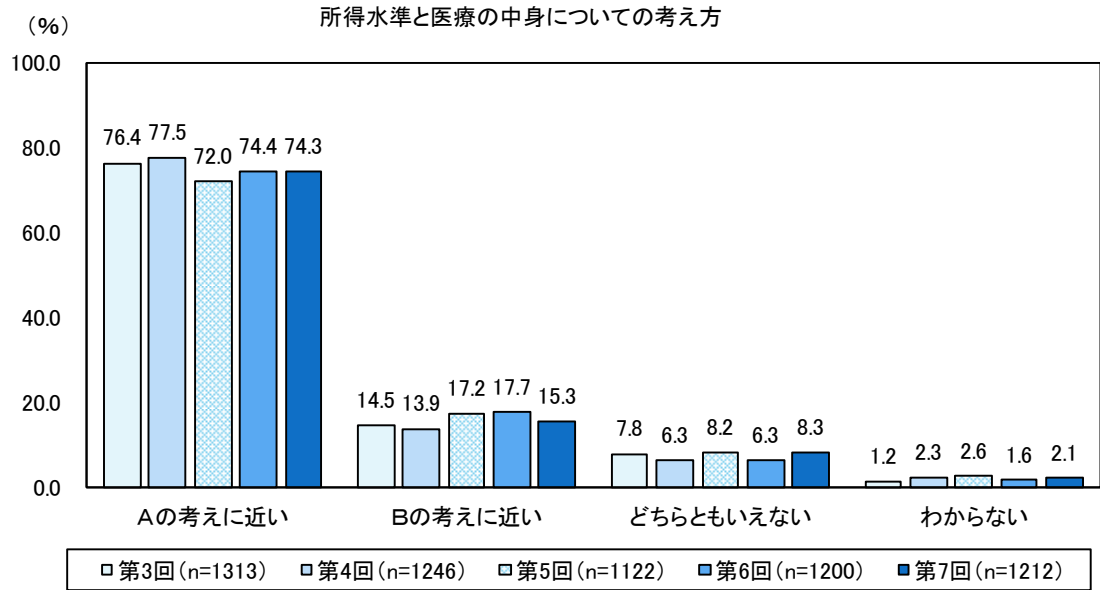
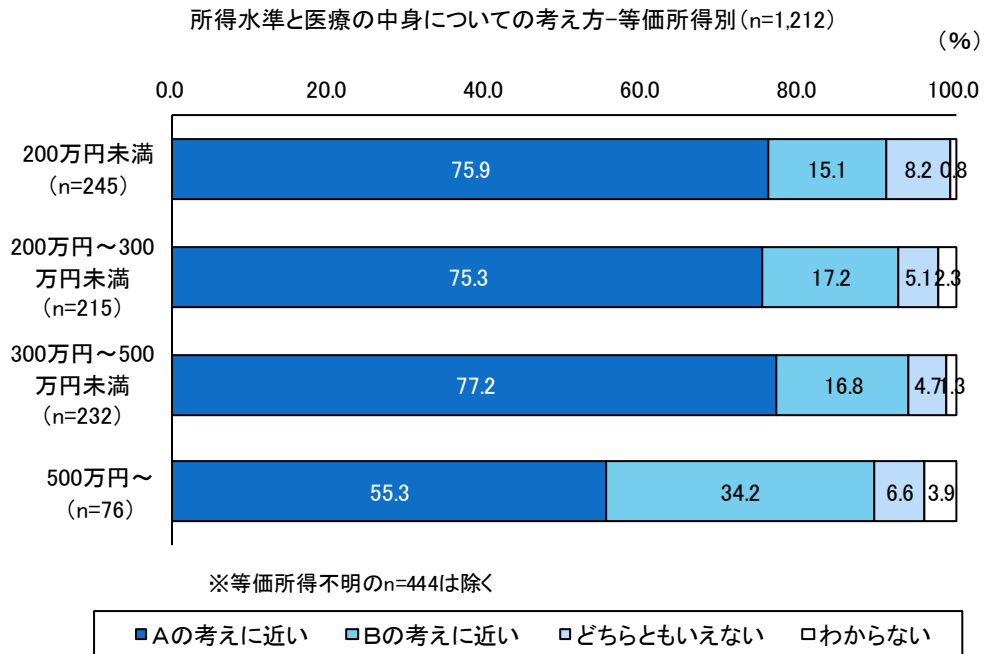


図 41 所得水準と医療の中身についての考え方-等価所得別



5.2. 経済的理由による受診見合わせ

過去 1 年間に具合が悪いのに費用負担が理由で医療機関に行かなかった人は全体の 4.5%であったが、等価所得 200 万円未満の間では 7.8%を占めた。

図 42 過去 1 年間に費用負担を理由とした受診控えがあるか

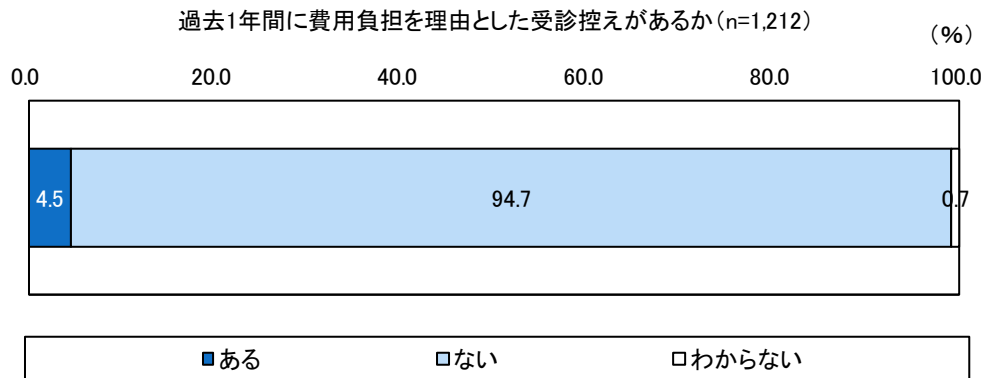
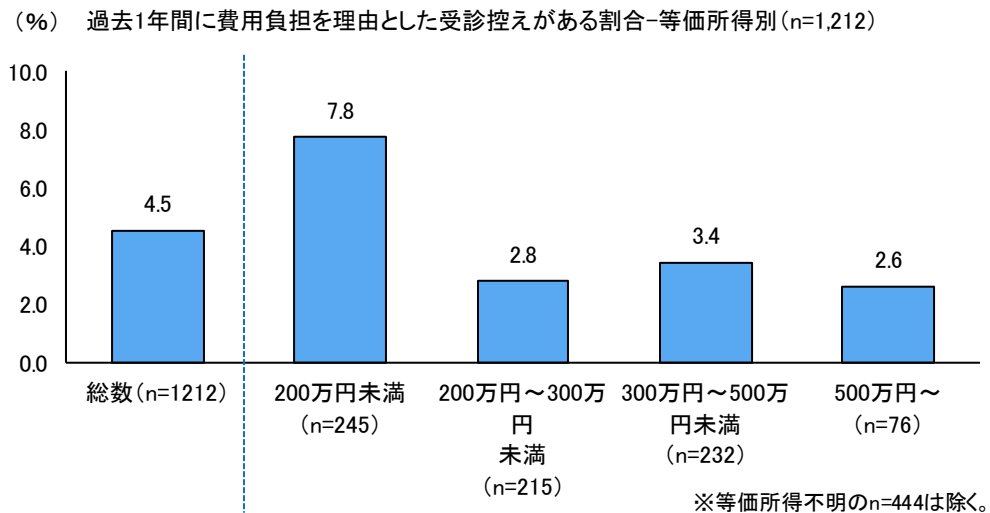


図 43 過去 1 年間に費用負担を理由とした受診控えがある割合-等価所得別



5.3. 地域医療への要望

地域の医療については医療の充実に向けて、国は医療へ支出を増やすべきと考える人は65.8%を占めた。病院や診療所を選ぶときの情報が不足していると考える人が47.4%で約半数であった。地域の医師が不足していると考える人は27.1%であった。医師の不足感は小都市で有意に高い傾向がみられた。

図 44 地域や国の医療体制についてご自身の考え
地域や国の医療体制についてご自身の考え (n=1,212) (%)

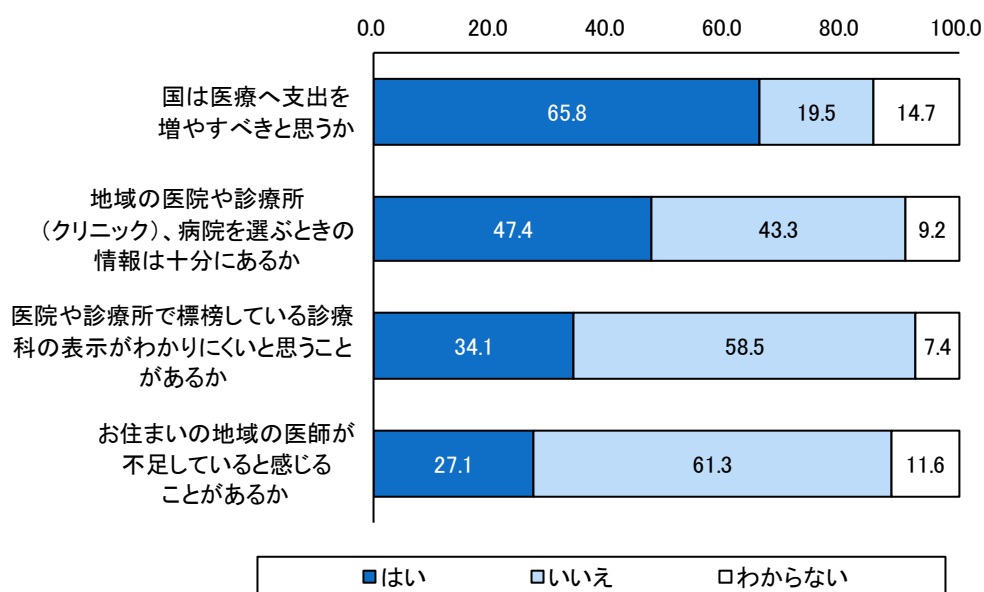
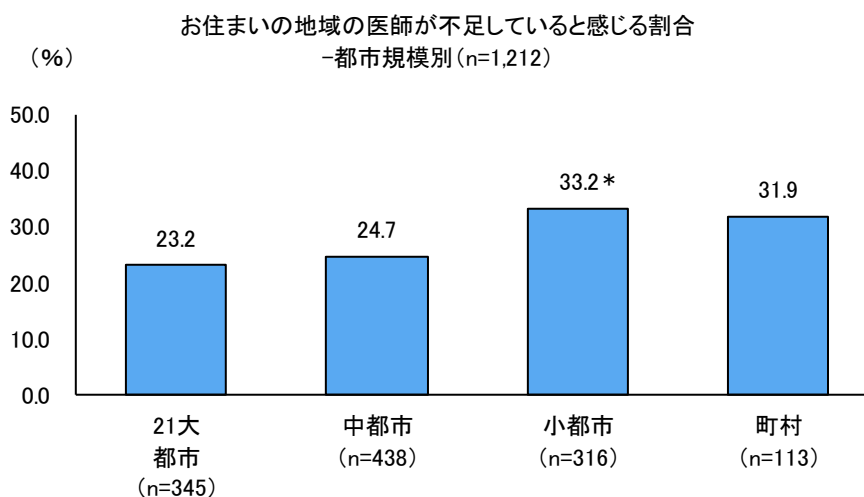


図 45 お住まいの地域の医師が不足していると感じる割合-都市規模別



* p<0.05

6. 健康意識の向上と新しい医療への期待

6.1. 日常の健康管理で気を付けていること

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、国民の日常的な健康管理に対する意識が高まっている。同様の質問を行った第5回調査との比較では、多くの活動について実施割合の増加がみられた。また、男女別では、女性のほうが運動以外の項目で男性より全て高い割合であった。年齢別では20歳～44歳の若い世代では、全般に低い傾向がみられた。

図 46 日常の健康管理で気を付けていること（複数回答）

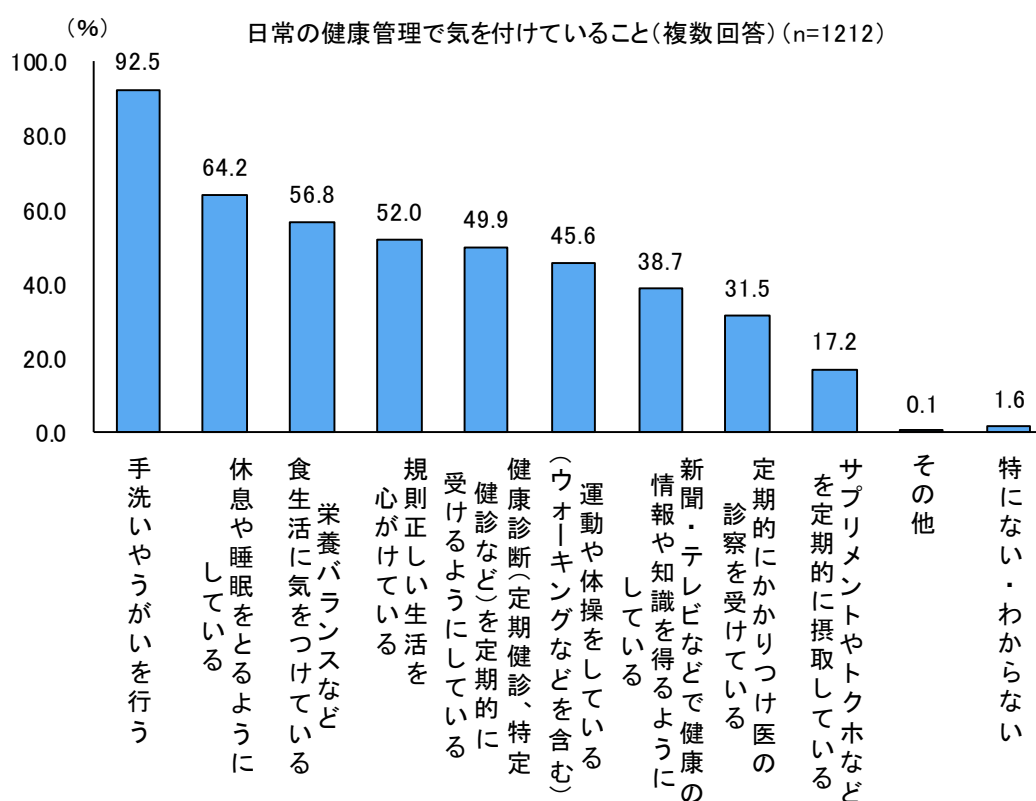


図 47 日常の健康管理で気を付けていること（複数回答）-第5回、第7回調査の比較

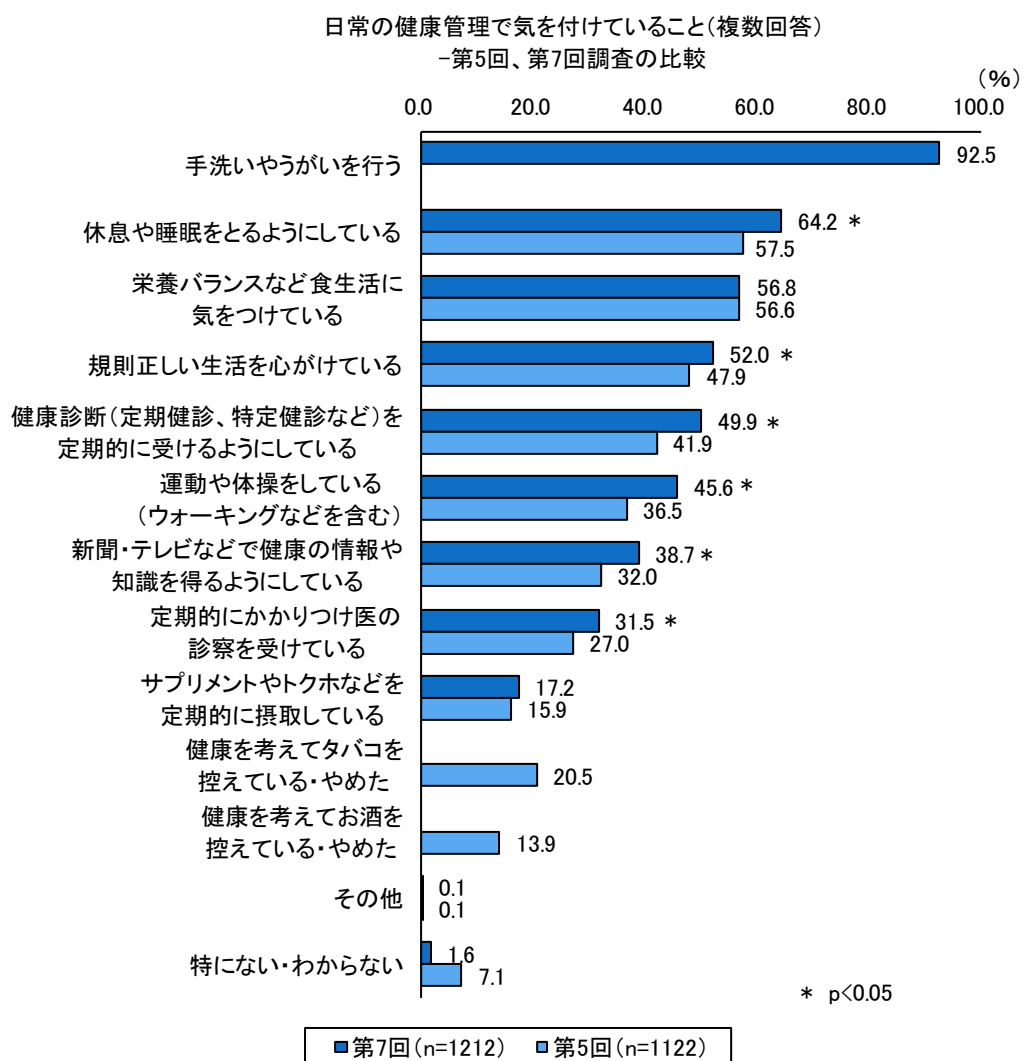


図 48 日常の健康管理で気を付けていること（複数回答）-男女別

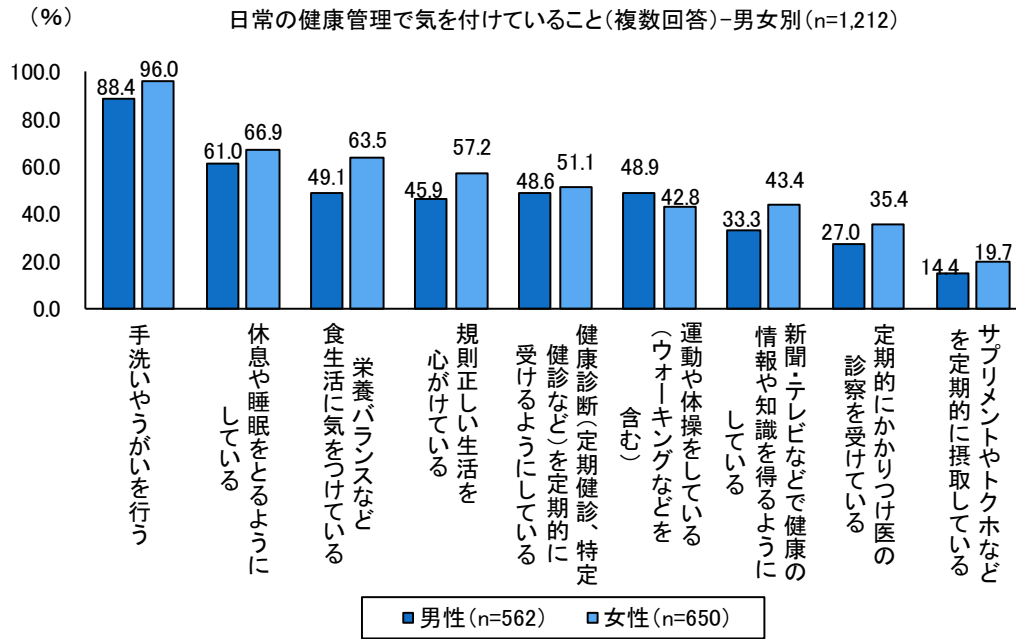
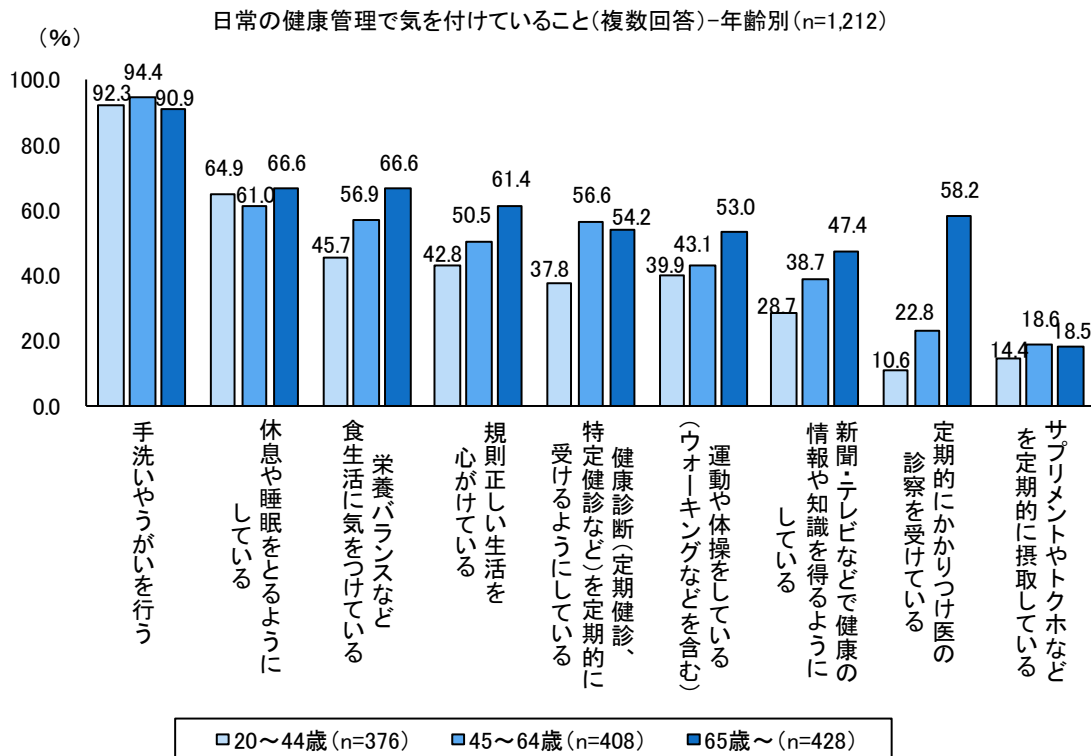
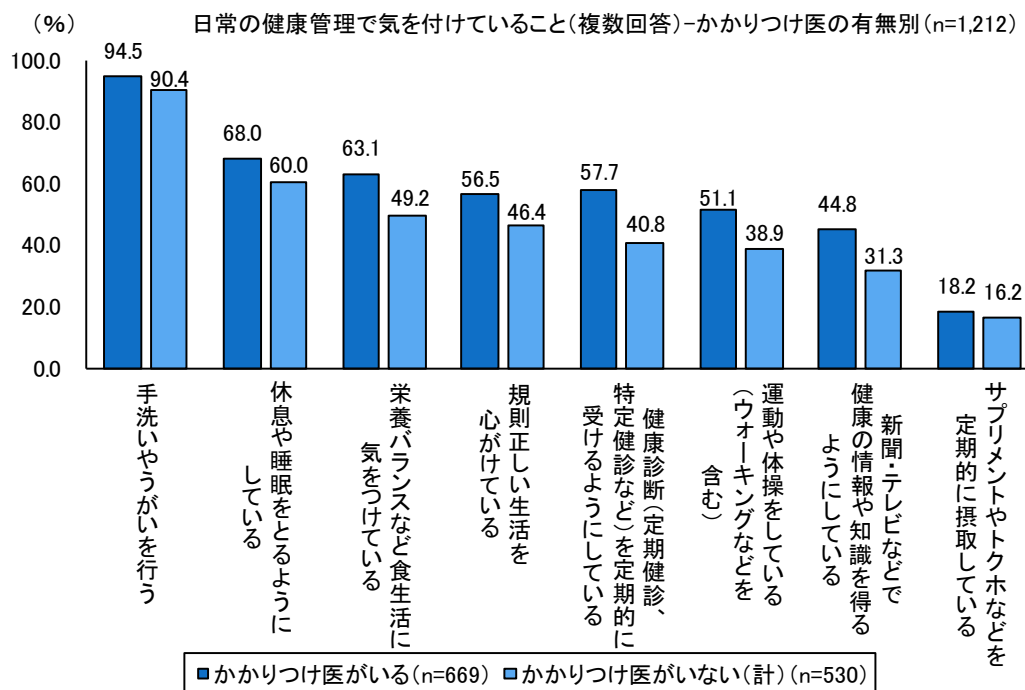


図 49 日常の健康管理で気を付けていること（複数回答）-年齢別



かかりつけ医がいる人といない人を比べると、かかりつけ医がいる人は全体に割合が高い傾向がみられ、年齢調整を行っても同様であった。

図 50 日常の健康管理で気を付けていること（複数回答）-かかりつけ医の有無別



6.2. これからの医療の変化への期待

これからの医療の変化への期待という観点から、自身で健康管理ができる医療に期待する割合が81.4%を占めた。また、76.1%の人が、適切な医療と専門医への紹介をしてくれるかかりつけ医をすべての国民が持つ医療を期待していた。年代別にみると、45～64歳の人は他の年代に比べてかかりつけ医への期待が高く、かかりつけ医のさらなる普及を推進することが重要である。

図 51 これからの医療の変化に期待する割合（大いに+やや）

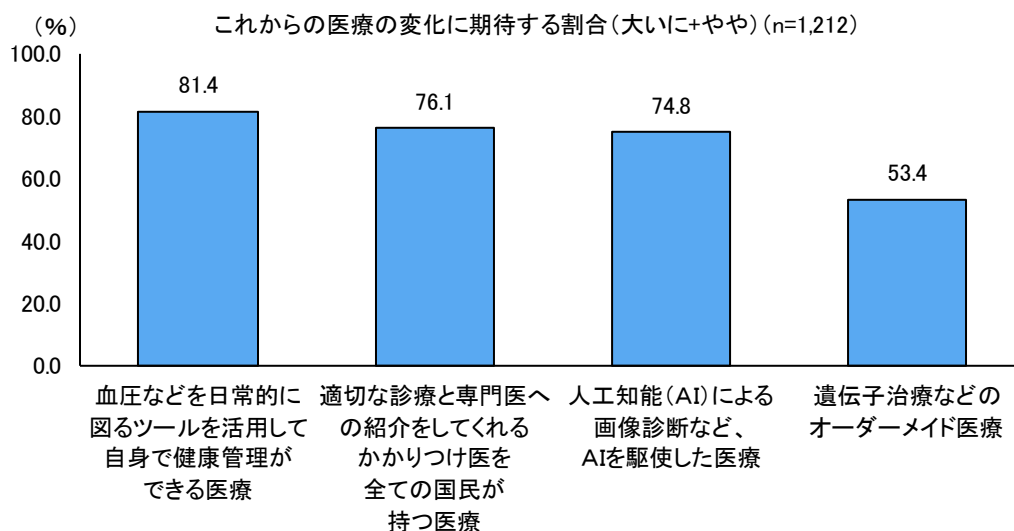
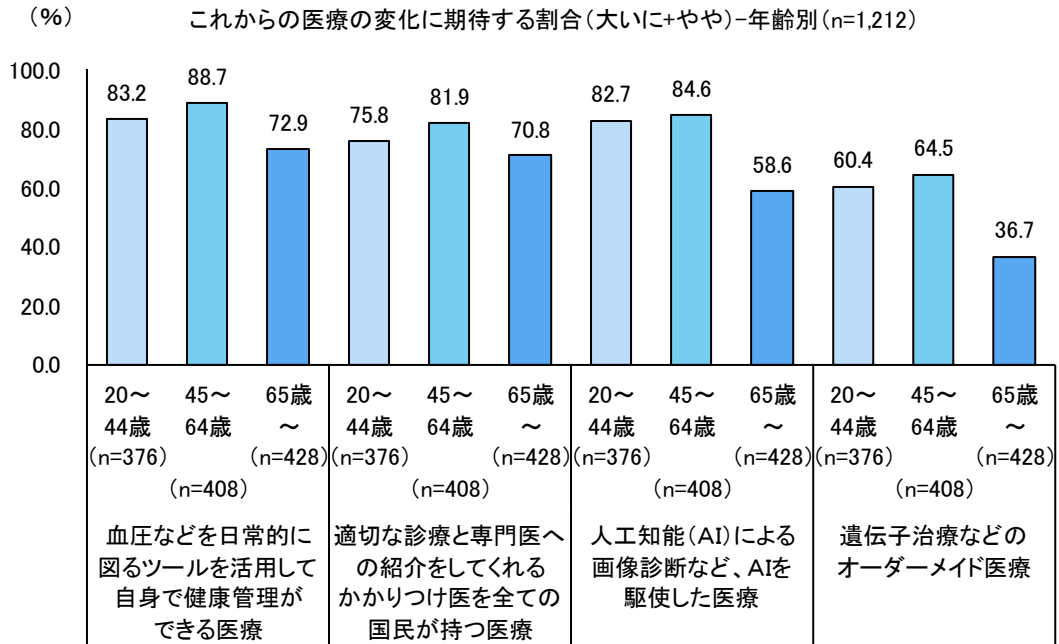


図 52 これからの医療の変化に期待する割合（大いに+やや）-年齢別



7. 最期までの療養の場

7.1. 最期までの療養の場

治る見込みがなく余命半年と告げられた場合の療養生活の場として自宅が多くを占めた。ただし、自宅で療養してから医療機関に入院したい、緩和ケア施設に入院したいが、それぞれ28.6%、25.7%を占めたが、最期まで自宅で療養したいと考える人は18.6%であった。在宅医療を利用して自宅で最期を迎えることについての普及は低い状況であった。

過去調査との比較では、自宅から緩和ケア施設は増加傾向が見られるが、最期まで自宅は増加していない。また、45～64歳の年代では最期まで自宅を希望する割合が低い傾向がみられ、在宅看取りの普及に向けた課題が示唆された。

図 53 治る見込みがない場合、最期まで過ごしたい療養生活の場 (n=1,212)

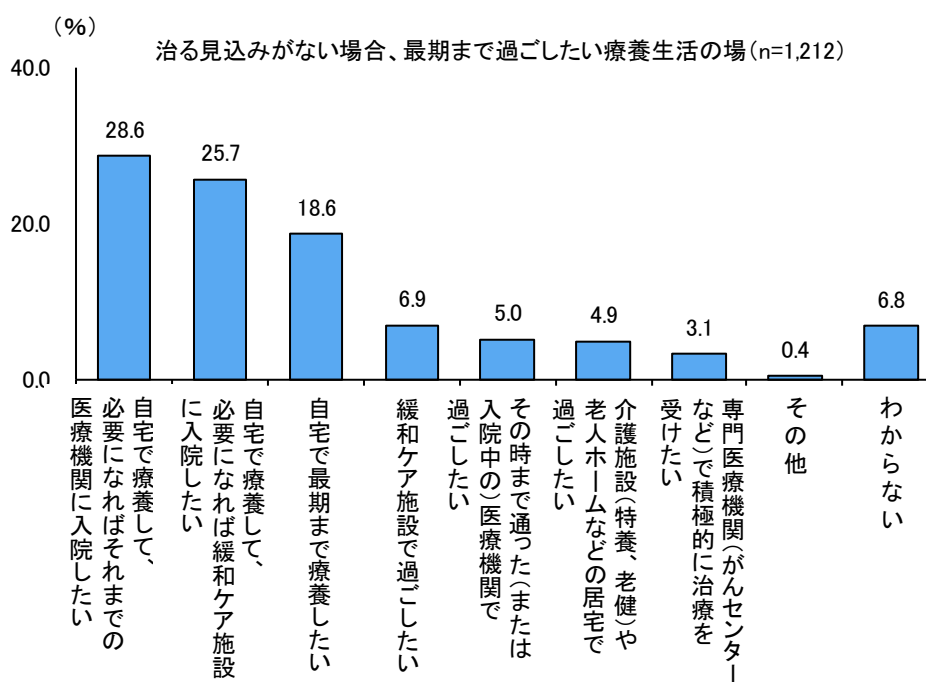


図 54 治る見込みがない場合、最期まで過ごしたい療養生活の場-第5回～第7回

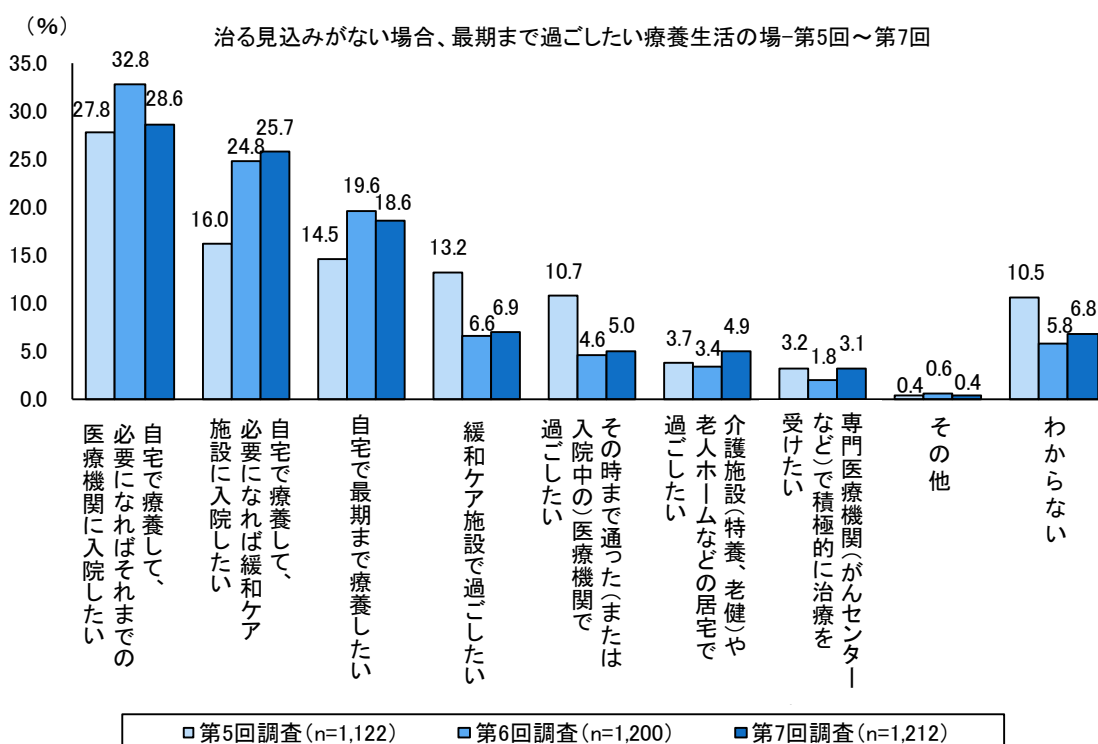
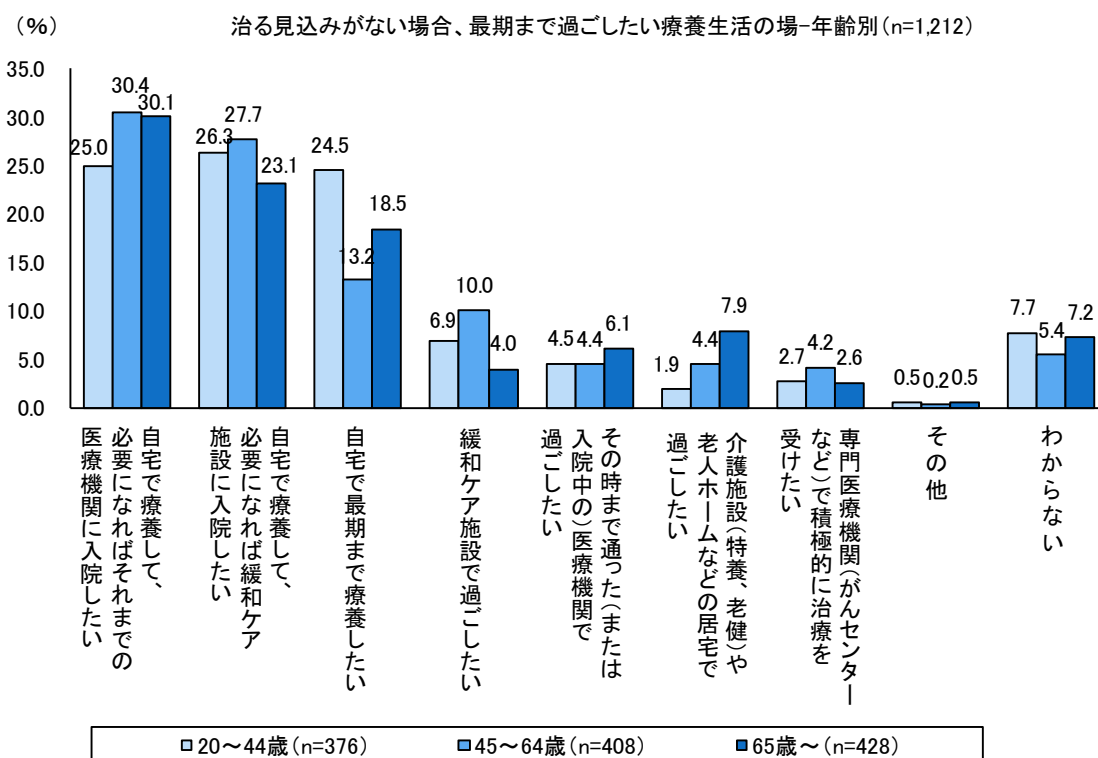
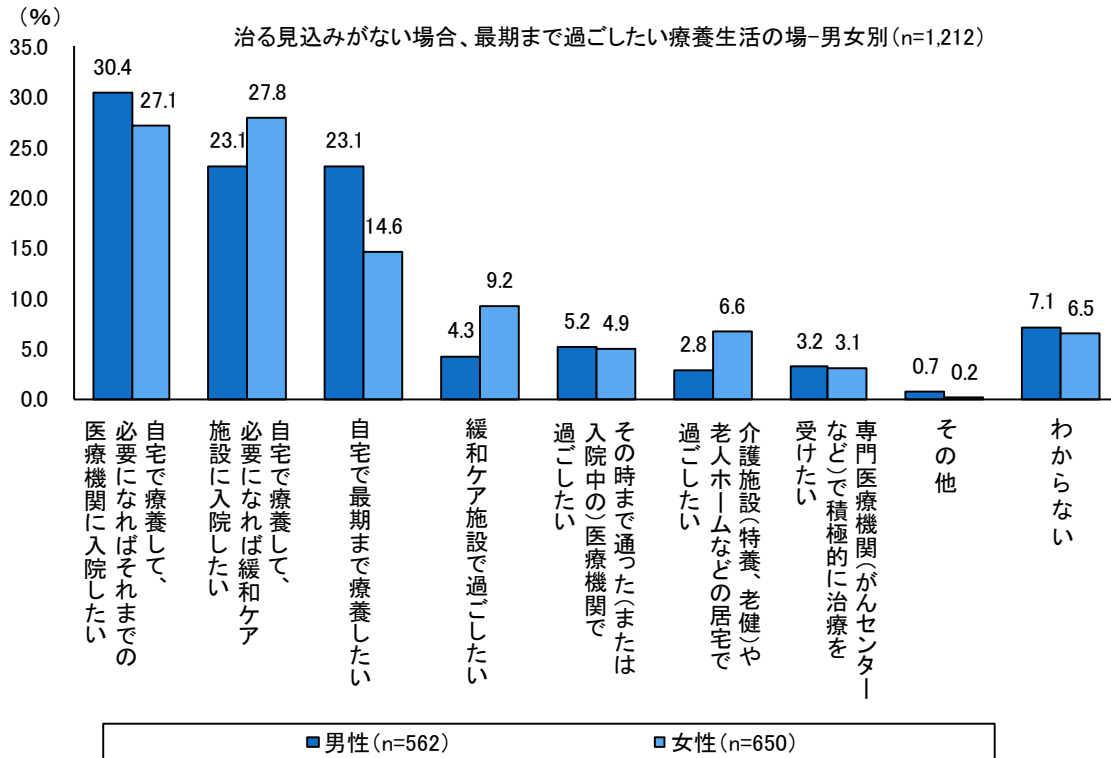


図 55 治る見込みがない場合、最期まで過ごしたい療養生活の場-年齢別



男女別にみると、自宅で最期まで療養したいという割合は女性のほうが男性より低く、家族が行うケアの負担などを考慮した結果と推測される。

図 56 治る見込みがない場合、最期まで過ごしたい療養生活の場-男女別 (n=1,212)



8. まとめ

8.1. 新型コロナ蔓延の中での医療機関の対応

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は国民の生活様式に関する意識を変え、わが国の経済と社会に甚大な影響を与えている。医療機関における感染不安が高まり、必要な検査や診療、予定手術などの先延ばしが発生し、持病の重篤化や糖尿病など生活習慣病の悪化が危惧される。調査では、国民が外出自粛をする中で 2～3 割の国民が何らかの不調を感じていた。今後、医療機関が必要な検査や診療、予防接種などを適切に提供していくため、医療機関における安全対策のさらなる強化とそのための支援が必要とされている。

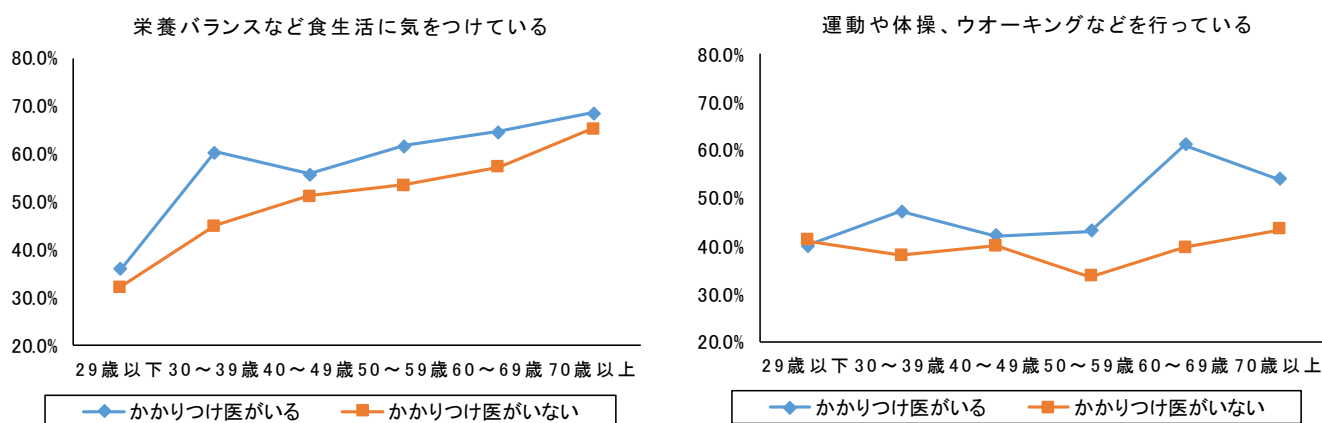
8.2. 高い満足度と医療の充実への期待

本調査で明らかになった「受けた医療」と「医療全般」への高い満足度は、国民の間で医療への理解度が高まり、医師患者関係が向上していることを示唆している。国民はわが国の医療技術や医療安全に対して高い信頼を置いており、医療従事者はそれらの期待に今後も応えていく必要がある。ただし、働き方改革が推進される中で従来通りの水準を維持していくには、不足する医療資源の確保と支援が必要になると推測される。

8.3. かかりつけ医の普及

本調査からは、かかりつけ医がいる人はいない人に比べていずれの年代でも健康意識が高い傾向がみられた。かかりつけ医を持つことと健康への取り組み方との関連性が改めて示されており、かかりつけ医の普及は重要な課題の1つである。新型コロナウイルス感染症の拡大で、かかりつけ医の役割の重要性が一層増しており、今冬の感染症対策に向けて国民への啓発活動と普及が急務と思われる。

図 57 健康への意識-かかりつけ医の有無別、年齢別



8.4. アフターコロナにおける健康長寿社会の構築

新型コロナウイルス感染症との闘いはワクチンと治療薬の開発に成功するまで今後も続くが、国民の生活様式や受療行動の変化はコロナ収束後も継続することが予想される。特に、新たな生活様式の中で、自身の健康を管理する健康意識が向上したことや医療や医学への関心が高まったことが示され、またオンライン診療への関心も一定程度示されている。現在国民の間で培われているこれらの意識や関心が、アフターコロナにおいてもさらに高められ、同時に地域の医療者による効果的な診療や予防の提供が行われ、健康長寿社会の構築につながることを期待される。

9. かかりつけ医（続き）

9.1. かかりつけ医への受診実態

9.1.1. 人数・医療機関

表 10 かかりつけ医の人数 (n=669)

	人数	割合
1人	453	67.7
2人	151	22.6
3人以上	59	8.8
わからない	6	0.9
計	669	100.0

表 11 かかりつけ医がいる医療機関 (n=669)

	人数	割合
診療所	496	74.1
診療所+大病院	19	2.8
診療所+中小病院	30	4.5
診療所+中小病院+大病院	1	0.1
中小病院	85	12.7
中小病院+大病院	3	0.4
大病院	34	5.1
わからない	1	0.1
合計	669	100.0

9.1.2. かかりつけ医にかかっている期間

図 58 かかりつけ医にかかっている期間 (n=669)

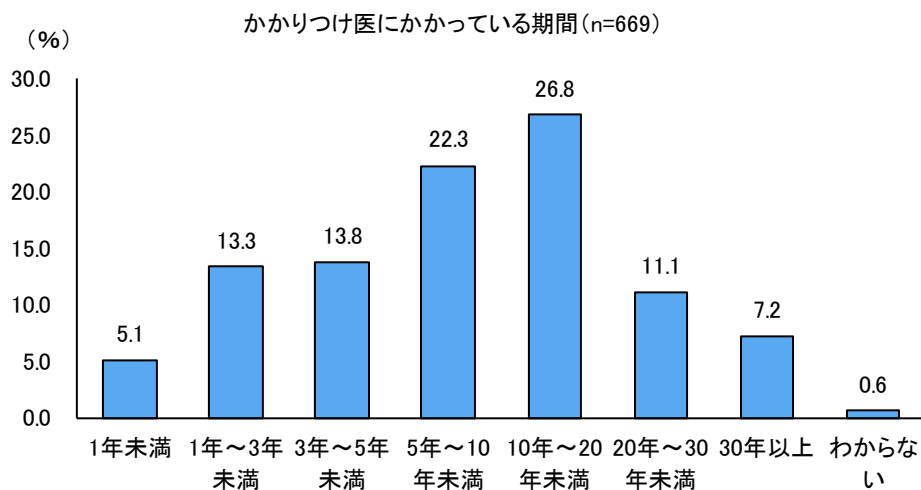
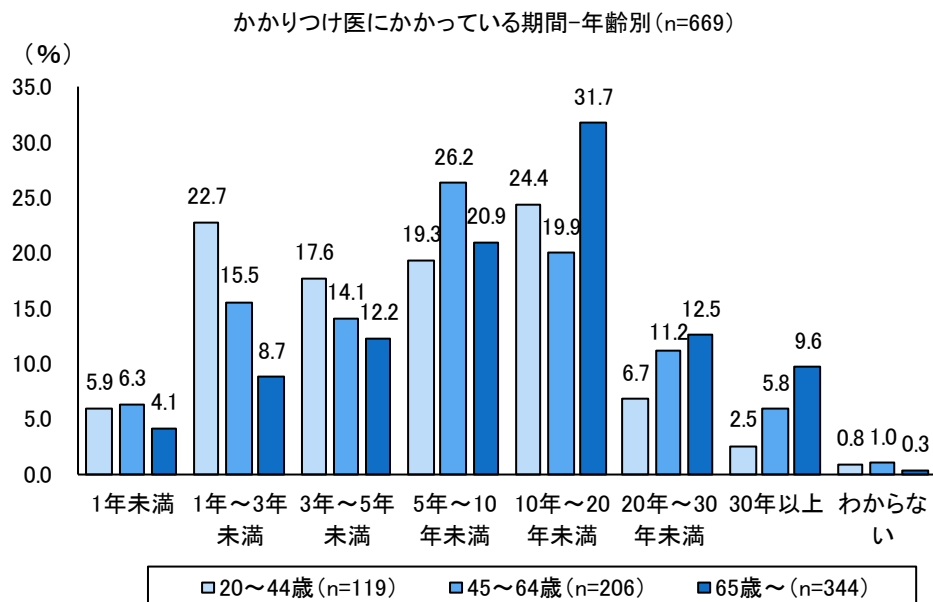


図 59 かかりつけ医にかかっている期間-年齢別



9.1.3. 受診頻度と診療科

表 12 1年間にかかりつけ医を受診した回数

	人数	割合
この1年は受診していない	60	9.0
1年に1～2回程度	140	20.9
1年に3～10回程度	206	30.8
月に1回程度	208	31.1
月に2回程度	35	5.2
月に3、4回程度	10	1.5
月に5回以上	9	1.3
わからない	1	0.1
計	669	100.0

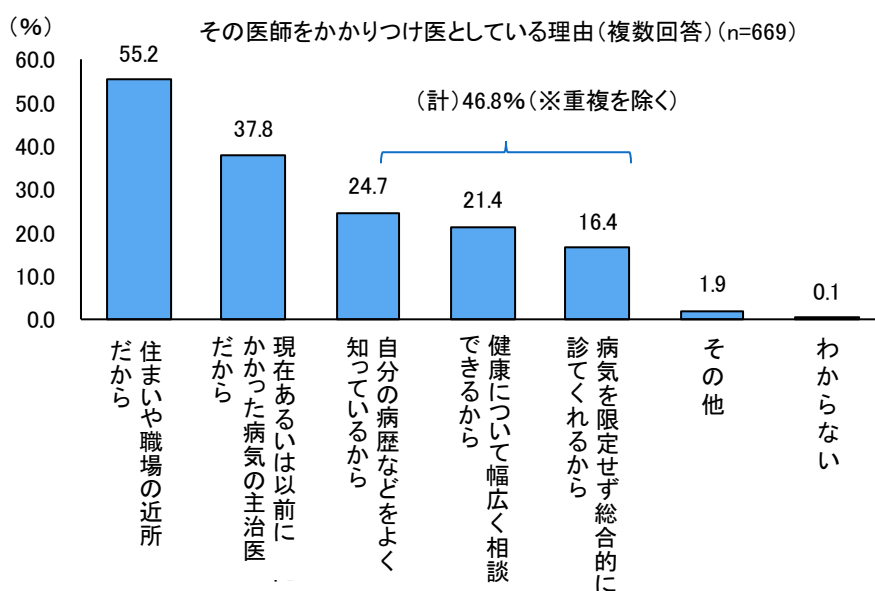
表 13 かかりつけ医の診療科

	人数	割合
内科系	569	85.1
整形外科	27	4.0
外科系	25	3.7
婦人科	13	1.9
皮膚科・耳鼻咽喉科	12	1.8
眼科	7	1.0
心療内科	4	0.6
小児科	3	0.4
その他	3	0.4
わからない	6	0.9
計	669	100.0

9.2. かかりつけ医としている理由と見つけ方

既存調査⁷でも示されているように、その医師をかかりつけ医としていることの最も大きな理由は住まいや職場の近所であるという近接性であった。2番目は、自身の疾患の主治医だからであった。また、自分の病歴などをよく知っている（24.7%）、健康について幅広く相談できる（21.4%）、総合的に診てくれる（16.4%）の3項目については、重複を除いた合計が46.8%でほぼ半数を占めた。

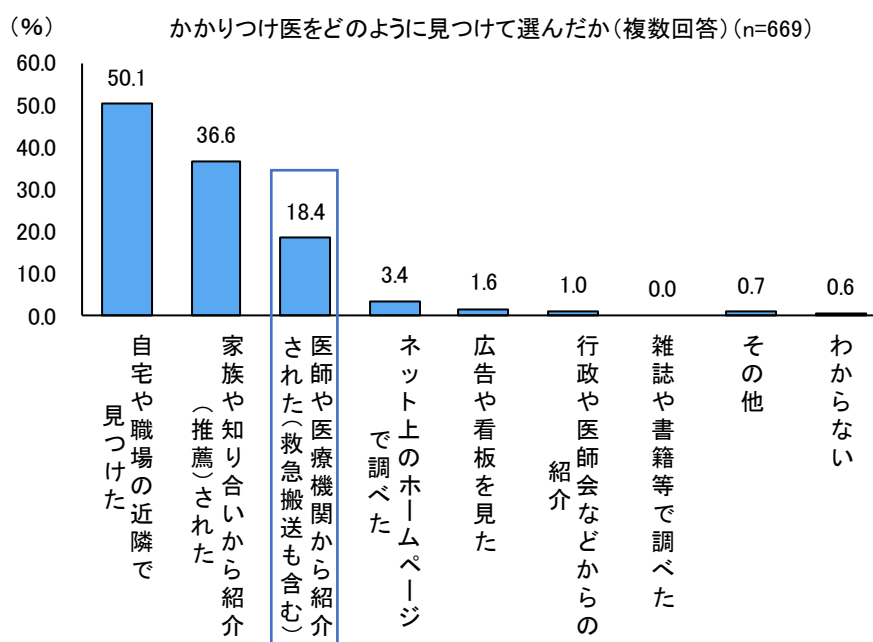
図 60 その医師をかかりつけ医としている理由（複数回答）（n=669）



⁷ 健康保険組合連合会「医療・医療保険制度に関する国民意識調査」（2017）では、病気になるといつも相談し、診察を受ける医師がいると回答した539人のうち、その医師に決めた理由として「自宅から近く通院が便利であること」は71.2%で最多であった。

かかりつけ医のを見つけ方は、自宅や職場の近隣で見つけたが半数を占め、家族や知り合いからの紹介が約4割、医師や医療機関からの紹介が2割を占めた。かかりつけ医の今後の普及において、一般国民への普及活動のみならず、医療者の協力を得ることも必要であることを示唆している。

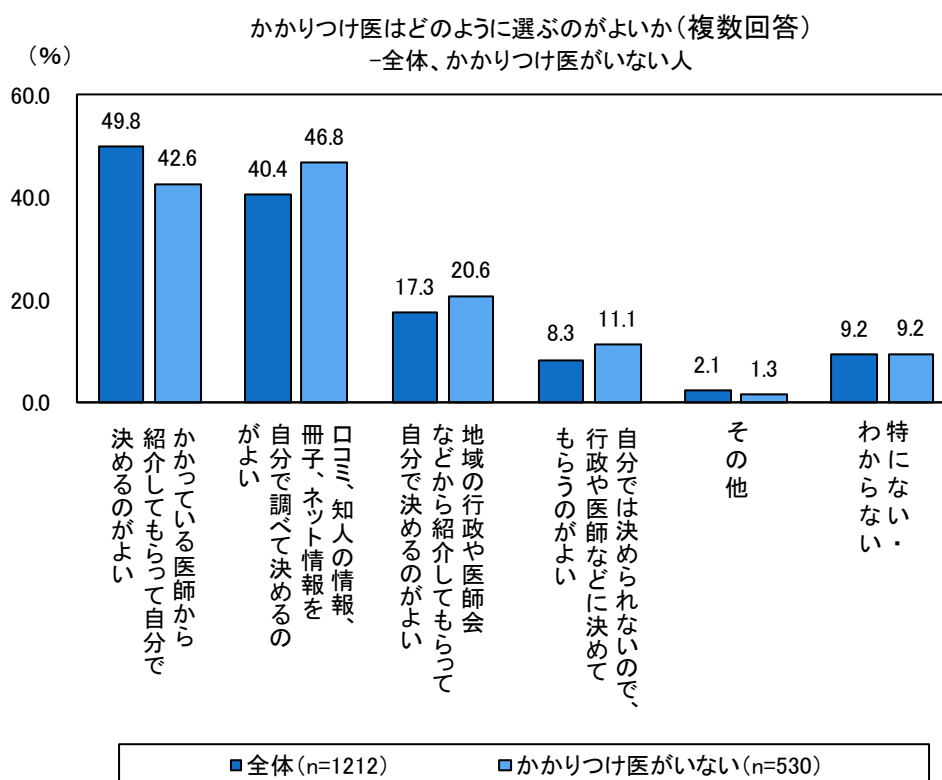
図 61 かかりつけ医をどのように見つけて選んだか（複数回答）（かかりつけ医がいる人 n=669）



9.3. 新たにかかりつけ医を選ぶときの選び方

かかりつけ医がいない人に、新たにかかりつけ医を決める必要があるとき、どのように選ぶのがよいかを尋ねると、自身で調べて決めるが46.8%、かかっている医師から紹介してもらって自身で決めるのがよいと考える人は42.6%を占めた。行政や医師などに決めてもらうのがよいと考える人は11.1%であった。かかりつけ医を「自身で」選ぶ方法を望む人が多くを占めている。

図 62 かかりつけ医はどのように選ぶのがよいか（複数回答）-全体、かかりつけ医がいない人



9.4. 大病院受診の際の負担金

令和2年度診療報酬改定で200床以上の地域医療支援病院も対象となった大病院受診の際に紹介状が無い場合の患者負担金（選定療養費）について、73.2%の人が知っている」と回答し、前回に比べて増加していた。また、かかりつけ医がいる人の中では負担金について知っている人が78.2%で、いない人の中では67.2%であった。かかりつけ医がいることと負担金を知っていることとの関係性が示された。

図 63 大病院などを紹介状なしで受診すると初診時に特別料金が発生することについて

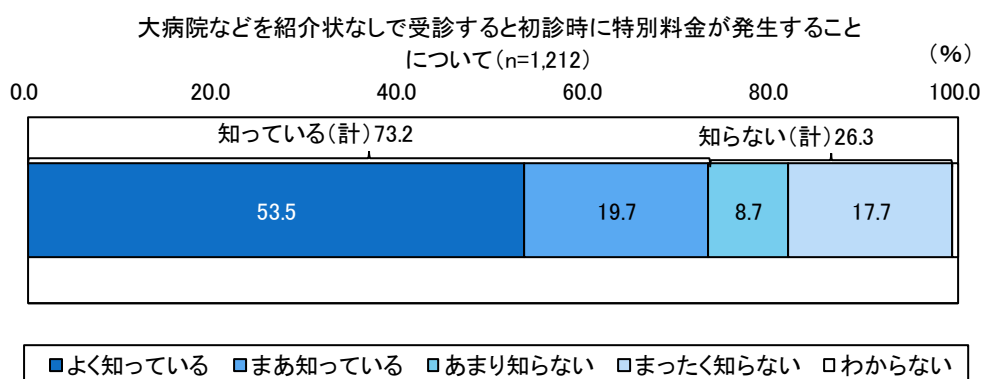


図 64 大病院などを紹介状なしで受診すると初診時に特別料金が発生することについて

-第6回、第7回の比較

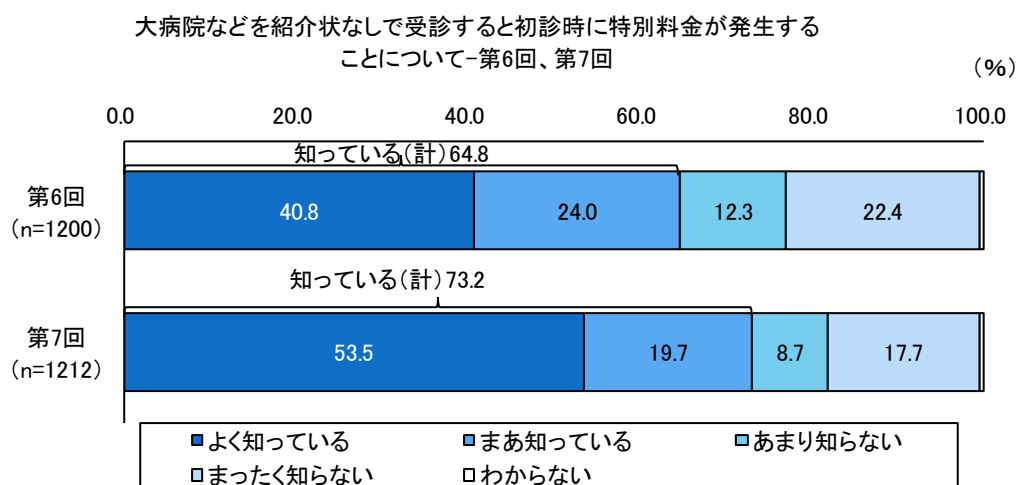
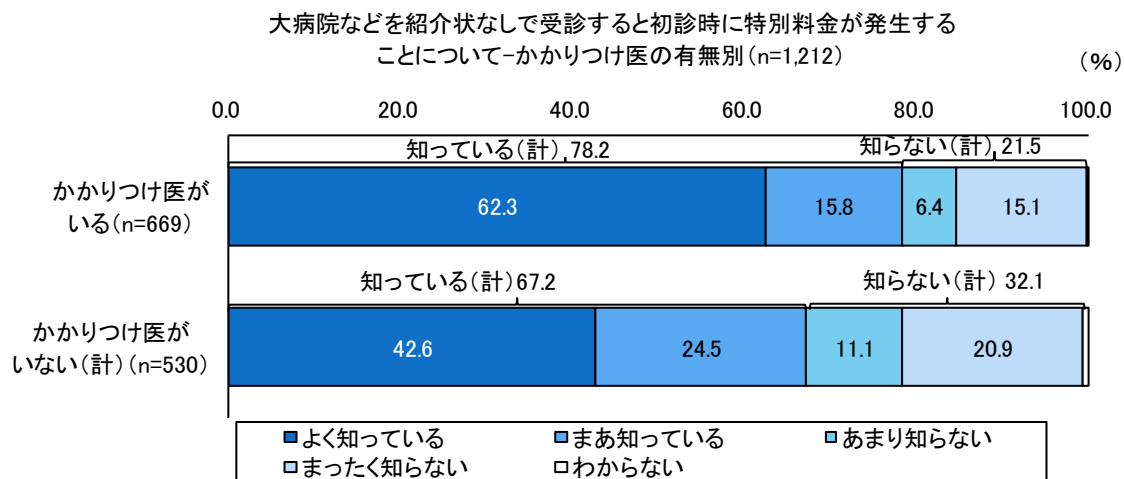


図 65 大病院などを紹介状なしで受診すると初診時に特別料金が発生することについて

-かかりつけ医の有無別



10. その他

10.1. 健康状態と健康への不安

図 66 現在の健康状態

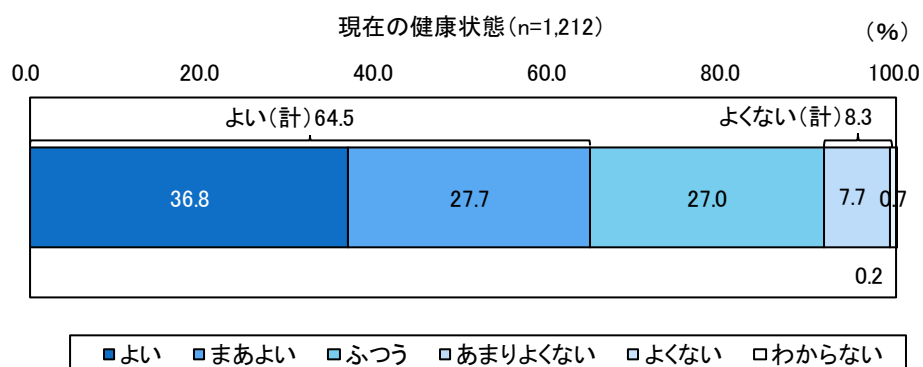


図 67 現在の健康状態-年齢別

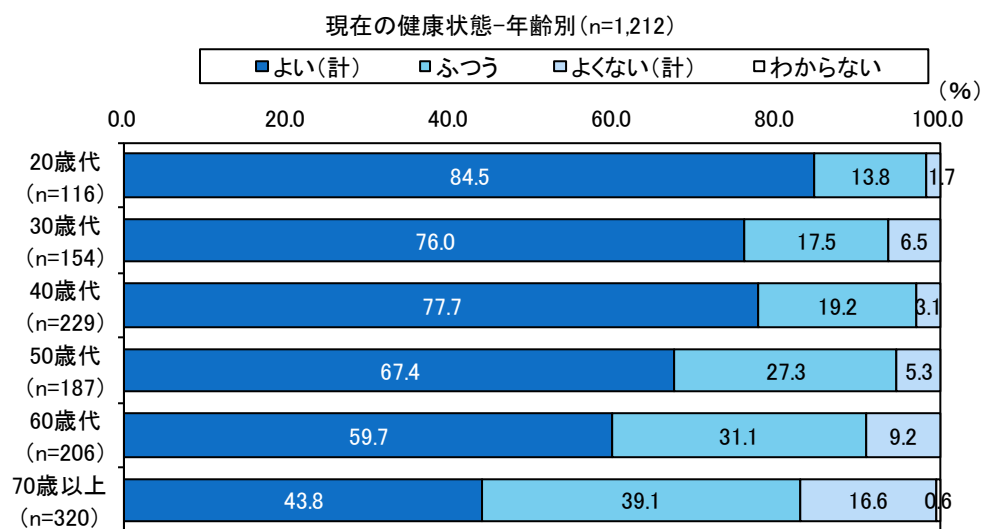
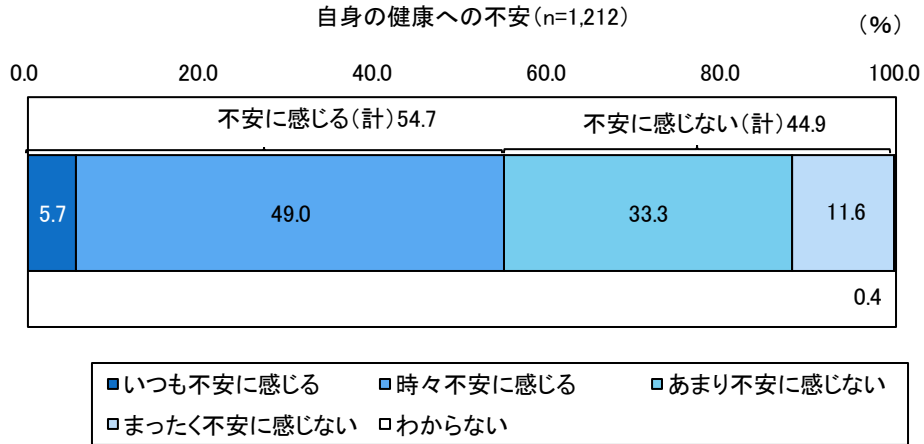


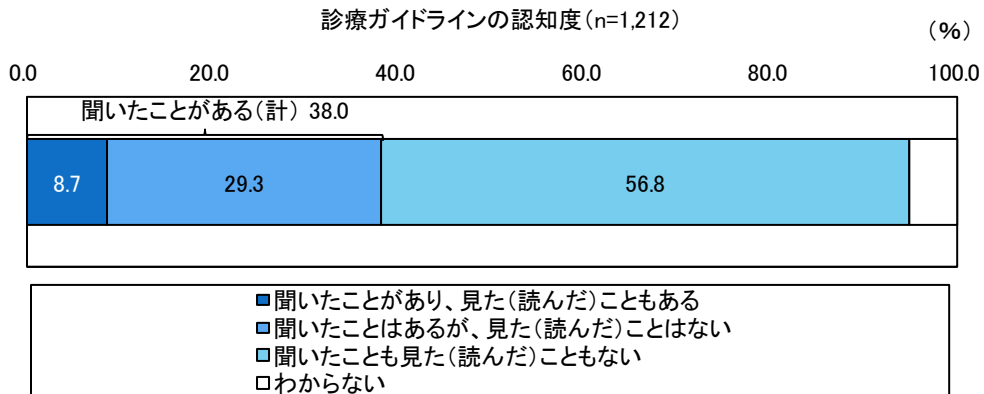
図 68 自身の健康への不安



10.2. 診療ガイドラインの認知度

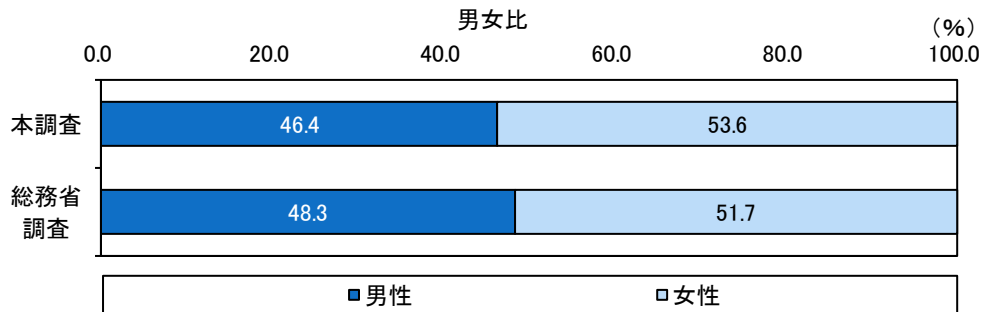
本調査では、わが国の医療における診断や治療の標準化に対する評価が低いことが示されたが、いわゆる診療ガイドラインの国民の間の周知度は低く、見たことがある人は8.7%と低い割合であった。さらなる啓発活動が必要と考えられる。

図 69 診療ガイドラインの認知度



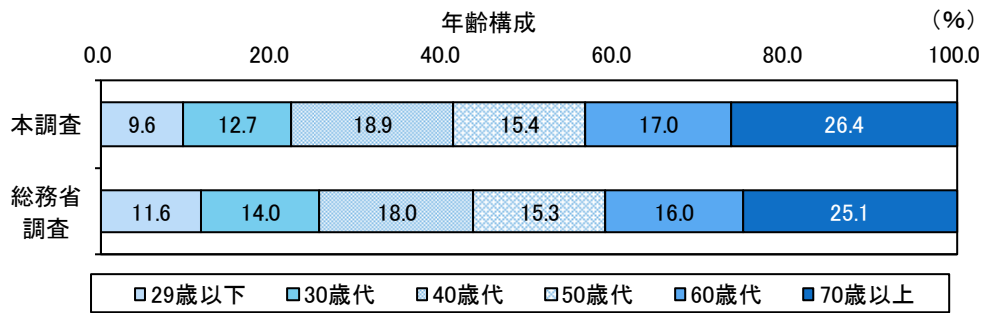
10.3. 母集団との比較

図 70 男女比



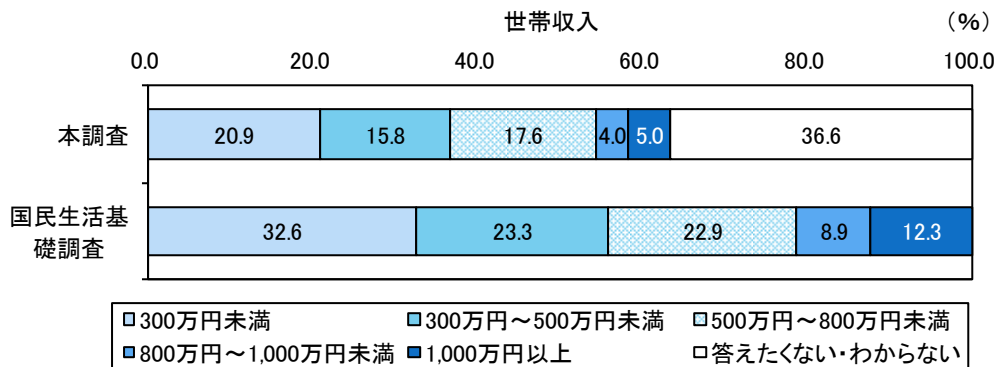
資料 総務省【日本人人口】住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(平成31年1月1日現在)

図 71 年齢構成



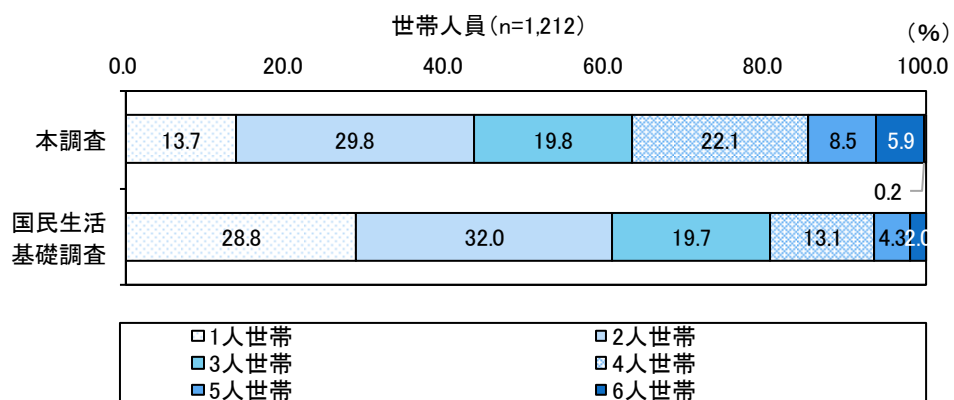
資料 総務省【日本人人口】住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(平成31年1月1日現在)

図 72 世帯収入



資料 厚生労働省 国民生活基礎調査2019年

図 73 世帯人員



資料 厚生労働省 国民生活基礎調査 2019年

調査の制約

アンケート調査の限界であるが、高齢者施設などに居住されている方、生活に支障のある低所得層や病弱な高齢者の方、経済・健康面で厳しい状況にある方は調査対象から外れている。従ってこれらの方々を含む一定割合の国民の意識は調査結果に反映されていない。次に、面接調査において回答者に偏りがあることは否めない。医療に対して一定の理解がある人の割合が高いことが推測される。ただし、WEB 調査、郵送調査などいずれの調査手法にもそれぞれ限界があることには留意する必要がある。

謝辞

末筆ながら、本調査に協力くださった全国の回答者の皆様に深く感謝申し上げます。また意識調査に関して日頃より重要なお助言を頂いている日本福祉大学名誉教授二木立先生ならびに本調査において貴重なご意見を頂きました三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社・主任研究員田極春美氏にこの場を借りて御礼申し上げます。

11. 添付資料

単純集計付き調査票

まず、新型コロナウイルス感染症についてお考えをお聞かせください。

最初に、緊急事態宣言、外出自粛要請についておたずねします。

Q 1. 【回答票 1】 新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、国は不要不急の外出自粛要請を発令しました。あなたは、国の外出自粛要請に従いましたか。

75.0	21.8	2.2	0.8	0.2
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
従った	まあ従った	あまり従わなかった	従わなかった	わからない

Q 2. 【回答票 2】 新型コロナを含む感染症の拡大を防ぐため、国や自治体が外出を禁止したり、休業を強制したりする一定の強制力が必要だと思いますか。

62.0	31.7	4.2	1.0	1.2
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
必要だと思う	まあ必要だと思う	あまり必要だと思わない	必要だと思わない	わからない

Q 3. 【回答票 3】 新型コロナの感染拡大で、生活にどの程度不安を感じますか。

32.9	49.2	14.9	3.1	0.0
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
大いに不安を感じている	ある程度不安を感じている	あまり不安を感じていない	まったく不安を感じていない	わからない

次に、歯科を除く医療機関での受診についておたずねします。

Q 4. 【回答票 4】 医療機関の待合室などで、ご自身が感染症などに感染する危険について不安を感じますか。

33.2	36.1	16.2	6.6	7.7	0.2
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	
不安	やや不安	あまり不安ではない	不安ではない	医療機関へは行かない	わからない

Q 5. 【回答票 5】新型コロナが拡大した4月から5月にかけて、医療機関への受診に変化がありましたか。あてはまるものをすべてお答えください。なお、ここでの対面診療とは医療機関に足を運んで診療を受ける形、オンライン診療とは、スマートフォン、タブレット、パソコンなどを用いて、インターネット上の画面越しに自宅で医師の診療を受ける形です。(M. A.)

(ア) 受診する必要がなかった	53.6
(イ) 以前と同様に対面で受診した	36.8
(ウ) 対面での慢性疾患等の定期受診を控えた	3.6
(エ) 重い症状があったが対面受診を控えた	0.2
(オ) 軽い症状はあったが対面受診を控えた	3.1
(カ) オンライン診療を受けた	0.4
(キ) 電話診療を受けた	0.7
(ク) 薬の処方期間を長くしてもらった	3.5
その他(具体的に)	0.6
わからない	0.5

Q 6. 【回答票 6】それでは、7月現在はいかがですか。あてはまるものをお答えください。(M. A.)

(ア) 受診する必要がない	→(Q 7へ)	60.3
(イ) 以前と同様に対面で受診している		35.3
(ウ) 対面での慢性疾患等の定期受診を控えている		3.6
(エ) 重い症状があるが対面受診を控えている		2.0
(オ) 軽い症状はあるが対面受診を控えている		0.3
(カ) オンライン診療を受けている		0.7
(キ) 電話診療を受けている		0.2
(ク) 薬の処方期間を長くしてもらっている		2.6
その他(具体的に)		0.2
わからない		0.0

【SQ 1は、Q 6で「2~10」のいずれか1つでも答えた人に】 n=479

SQ 1. 【回答票 7】さしつかえなければ、通院している診療科をすべてお答えください。(M. A.)

(ア) 内科(高血圧や糖尿病などの生活習慣病や慢性疾患など)	71.6
(イ) 胃腸科・消化器科	6.1
(ウ) 外科	6.1
(エ) 整形外科	15.9
(オ) 産婦人科	4.6
(カ) 小児科	1.9
(キ) 眼科	9.0
(ク) 皮膚科	7.3
(ケ) 心療内科・精神科	2.9
(コ) 耳鼻咽喉科	4.4
(サ) その他(具体的に)	2.1
答えたくない・わからない	1.7

【SQ 2は、Q 6で「3~5(受診を控えている)」と答えた人に】 n=35

SQ 2. 【回答票 8】受診を控えていることで、ご自身の疾患や健康状態が悪化するなどの影響を感じていますか。

2.9	45.7	22.9	28.6
(ア)	(イ)	(ウ)	
感じている	感じていない	どちらともいえない	わからない

【全員に】

Q 7. 【回答票 9】新型コロナの感染拡大で、スマートフォン、タブレット、パソコンなどを用いて、インターネット上の画面越しに自宅で医師の診療を受ける「オンライン診療」が特例的に推奨されました。あなたは今まで、オンライン診療についてご存じでしたか。また、オンライン診療を利用したことがありますか。この中から1つだけお答えください。

(ア) オンライン診療のことは聞いたことがあったし、利用したことがある	1.1	
(イ) オンライン診療のことは聞いたことがあったが、利用したことはない	77.6	→ { S Q 2 へ }
(ウ) オンライン診療のことは聞いたことがない	19.1	
わからない	→ (Q 8 へ)	2.1

【SQ 1は、Q 7で「1（オンライン診療を利用したことがある）」と答えた人に】 n=13

S Q 1. 【回答票 10】オンライン診療を受けた診療科はどの診療科ですか。あてはまるものをすべてお答えください。(M. A.)

- 69.2 (ア) 内科（高血圧や糖尿病などの生活習慣病や慢性疾患など）
- 0.0 (イ) 胃腸科・消化器科
- 0.0 (ウ) 外科
- 0.0 (エ) 整形外科
- 0.0 (オ) 産婦人科
- 7.7 (カ) 小児科
- 0.0 (キ) 眼科
- 7.7 (ク) 皮膚科
- 0.0 (ケ) 心療内科・精神科
- 0.0 (コ) 耳鼻咽喉科
- 7.7 (サ) その他（具体的に)
- 7.7 答えたくない・わからない

【SQ 2は、Q 7で「2～3（オンライン診療を利用したことがない）」と答えた人に】 n=1, 173

S Q 2. 【回答票 11】あなたは今後、必要に応じてオンライン診療を受けたいと思いますか。

38.1	43.0	18.9
(ア)	(イ)	(ウ)
必要に応じて受けたい	受けたくない	わからない

【全員に】

Q 8. 【回答票 12】将来、たとえば1年後から数年後において、新型コロナが収束したとき、あなたご自身の医療機関への受診のしかたや頻度は、新型コロナ前と比べて変わると思いますか、それとも変わらないと思いますか。

26.2	68.5	5.3
(ア)	(イ)	
変わると思う	変わらないと思う	わからない

次に、あなたの生活全般や意識などについておたずねします。

Q 9. 【回答票 13】 新型コロナの流行により、あなたの生活全般にどのような変化が生じましたか。

あてはまるものをすべてお答えください。(M. A.)

- 92.6 (ア) 手洗い、うがい、マスク着用など衛生面に気を付けるようになった
- 34.6 (イ) 自身の健康に対する意識(食事や運動など)が高まった
- 22.4 (ウ) 仕事のやり方が変わった(在宅勤務やオンライン会議、時差通勤など)
- 35.6 (エ) 外出や人との交流が減って、精神的不調やストレスを感じるようになった
- 20.7 (オ) 運動不足で体の不調を感じるようになった
- 28.9 (カ) 家族の重要性をより感じるようになった
- 33.7 (キ) 医療・保健の重要性を感じるようになった
- 37.2 (ク) 感染症やワクチンなど医学への関心が高まった
- 14.9 (ケ) 収入(家計)の減少で生活が苦しくなった
- 4.0 (コ) 特に変化はなかった
- 0.2 その他(具体的に)
- 0.1 わからない

Q10. 【回答票 14】 諸外国の状況と比較して日本の新型コロナウイルス対策をどのように評価しますか。

8.5	54.6	27.3	5.5	4.0
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
大いに 評価する	ある程度 評価する	あまり 評価しない	まったく 評価しない	わからない

Q11. 【回答票 15】 新型コロナウイルスの感染状況や対策について、国は迅速にわかりやすい情報提供を行ったと思いますか。

6.5	31.8	46.2	12.4	3.1
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
そう思う	まあそう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	わからない

Q12. 【回答票 15】 新型コロナの第2波、第3波の到来が予想されていますが、あなたがお住まいの地域では医療の体制が整えられていると思いますか。

7.7	36.1	31.0	5.7	19.6
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
そう思う	まあそう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	わからない

次に、健康や医療についておうかがいします。

Q13. 【回答票 16】 あなたが一番最近、医療機関で受診されたのは、いつごろですか。けが、出産、健康診断を含みますが、歯科はのぞいてお答えください。

22.8(ア) 2週間以内	10.6 (エ) 半年以内	6.8 (キ) 3年より前	→ (次ページ Q14へ)
21.7(イ) 1ヵ月以内	13.4 (オ) 1年以内	5.5 (ク) 一度も受診したことがない	
11.1(ウ) 3ヵ月以内	7.1 (カ) 3年以内	1.1 わからない	

SQ1. 一番最近に受診されたのは、医院やクリニックなどの診療所でしたか、それとも病院でしたか。 n=1,132

65.2	34.1	0.7
診療所 (医院・クリニック等)	病 院	忘れた・わからない

SQ2. では、この1年間に入院されることができましたか。 n=1,132

5.1	94.9	0.0
入院した	入院していない	わからない

SQ3. 【回答票 17】 一番最近に受診された病院や診療所についておうかがいします。ここにあげた(1)～(10)のそれぞれの事柄に、どの程度満足していますか。それぞれについて、最もあてはまるものを1つずつお答えください。 n=1,132

	(ア) 満足 している	(イ) まあ満足 している	(ウ) あまり 満足して いない	(エ) 満足して いない	該当しない・ わからない
(1) 医師の知識や技術について	42.8	49.2	4.0	0.8	3.3
(2) 医師の説明のわかりやすさについて	42.6	47.9	6.3	1.1	2.2
(3) 医師の態度や言葉使いについて	46.6	46.3	4.6	1.1	1.5
(4) 看護師の態度や言葉使いについて	47.5	45.7	4.0	1.1	1.8
(5) 待ち時間について	27.5	39.6	22.1	9.1	1.8
(6) 診察日・診療時間について	37.5	48.2	10.4	2.1	1.7
(7) 治療費について	33.5	49.3	12.3	2.6	2.4
(8) 検査や画像診断について	36.0	44.2	6.1	1.4	12.4
(9) 医師の投薬について	39.4	46.9	5.7	1.7	6.3
(10) それでは、総合的にみた場合	36.7	55.7	5.1	0.9	1.6

【Q13SQ3 (10) で「3・4 (満足していない)」と答えた人に】

SQ4. 【回答票 18】 あなたが、「満足していない」と感じるのは特にどのような点ですか。この中から3つまで選んでください。(3M. A.) n=68

19.1	(ア) 医師の知識や技術	42.6	(キ) 治療費
35.3	(イ) 医師の説明	4.4	(ク) 検査や画像診断
26.5	(ウ) 医師の態度や言葉使い	14.7	(ケ) 医師の投薬
13.2	(エ) 看護師の態度や言葉使い	0.0	(コ) その他 (具体的に)
57.4	(オ) 待ち時間	0.0	特にない
22.1	(カ) 診察日や診療時間	2.9	わからない

【全員に】

次に、病院や医院・クリニックなどの診療所で診療を受けられたときのことについておうかがいします。

Q14. [回答票 19] あなたは、患者一人ひとりの性格や立場、本人の希望といった個別状況に応じた医療が行われていると思いますか。この中から1つだけお答えください。

24.5	49.3	15.8	3.8	6.7
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
そう思う	まあそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わない	わからない

Q15. [回答票 19] あなたは、医師は患者の症状を治すだけではなく、心のケアまで行っていると思いますか。この中から1つだけお答えください。

13.4	33.5	35.0	9.9	8.3
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
そう思う	まあそう思う	あまりそうは 思わない	そうは思わない	わからない

Q16. [回答票 20] あなたは日本の医療全般について満足していますか。この中から1つだけお答えください。

17.5	58.6	15.2	3.5	5.2
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である	わからない

Q17. [回答票 21] あなたの現在の健康状態はいかがですか。この中から1つだけお答えください。

36.8	27.7	27.0	7.7	0.7	0.2
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	
よ い	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	わからない

Q18. [回答票 22] あなたは、自分の健康に不安を感じることがありますか。この中から1つだけお答えください。

5.7	49.0	33.3	11.6	0.4
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
いつも不安に 感じる	時々不安に 感じる	あまり不安に 感じない	まったく不安に 感じない	わからない

Q19. [回答票 23] あなたは、今後の医療提供体制において重点を置くべき点はどのようなことだと思いますか。この中から3つまであげてください。(3M. A.)

- 47.4 (ア) 夜間や休日の診療や救急医療体制の整備
- 39.8 (イ) 高齢者などが長期入院するための入院施設や介護老人保健施設などの整備
- 24.2 (ウ) 医療従事者(医師、看護師など)の資質の向上(診療能力や対話能力など)
- 44.5 (エ) 感染症や災害に対応した医療提供体制の充実
- 15.9 (オ) 軽い病気の相談や専門医療との連携などを行う身近な医療の充実
- 19.4 (カ) 心のケアや心の健康を保つための医療の整備
- 22.4 (キ) 地域の診療所と病院の連携
- 25.0 (ク) 医療従事者(医師、看護師など)の確保
- 9.7 (ケ) 訪問診療やホームヘルパー派遣など在宅医療の整備
- 7.8 (コ) IT(ICT)を活用した効率的な医療の促進
- 0.5 (サ) その他(具体的に)
- 4.0 わからない

Q20. 【回答票 24】あなたは、日本の医療全般についてどのように感じていますか。ここにあげた(1)～(10)の事柄について、それぞれ最もあてはまるものを1つずつお答えください。

	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	
	よい	まあよい	どちらともいえない	やや悪い	悪い	わからない
(1) 医療の技術 (提供される医療内容) …… →	36.7	48.8	10.3	1.0	0.2	2.9
(2) 夜間休日の医療へのアクセス …… →	13.3	35.0	31.1	12.3	1.8	6.5
(3) 医師と患者のコミュニケーション …… →	14.7	42.7	31.5	6.8	1.0	3.2
(4) 医師の資質 (信頼性や倫理性など) …… →	15.8	45.0	28.5	4.0	1.1	5.6
(5) 患者の価値観を重視した医療 …… →	12.6	34.8	38.4	6.1	1.2	6.8
(6) 医療の安全性 (医療事故防止) …… →	21.0	49.8	20.1	2.7	0.3	6.0
(7) 医療の効率性 (重複検査が無いなど) …… →	12.9	38.2	30.8	9.6	0.7	7.8
(8) 診断や治療の標準化 …… → (医療機関の間での差やバラツキがない)	11.0	34.6	33.9	9.0	1.4	10.1
(9) 個人情報に対するセキュリティ …… →	22.1	43.5	22.3	3.7	0.6	7.8
(10) 国民の医療費負担 …… →	14.8	37.5	25.2	15.5	4.1	3.0

次に、かかりつけ医についておうかがいします。

Q21. 【回答票 25】かかりつけ医とは、「何でも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要なときには専門医を紹介でき、身近で頼りになる総合的な能力を有する医師」のことです。あなたには、かかりつけ医がいますか。この中から1つだけお答えください。

(ア) いる	55.2
(イ) いないがいるとよいと思う	18.1
(ウ) いない	
わからない	25.7
	1.1

→ { 9ページSQ2へ }
→ (10ページQ22へ)

【SQ1の(1)～(11)は、Q21で「1(かかりつけ医がいる)」と答えた人に】 n=669

SQ1. あなたのかかりつけ医についてお聞きします。

(1) 【回答票 26】体調が悪いときや健康について相談したいときに、いつもかかりつけ医を受診しますか。この中から1つだけお答えください。

76.5	(ア) いつも受診する
21.2	(イ) 受診することもある
1.3	(ウ) 受診しない
0.9	わからない

(2) あなたにとっての「かかりつけ医」は何人ですか。

67.7	22.6	8.8	0.9
1人	2人	3人以上	わからない

(3) 【回答票 27】あなたの「かかりつけ医」は診療所の医師ですか、病院の医師ですか。

「かかりつけ医」が2人以上いる場合は、あてはまるものをすべてお答えください。(M. A.)

81.6	(ア) 診療所 (医院・クリニック等) の医師
17.8	(イ) 中小病院 (200床未満) の医師
8.5	(ウ) 大学病院等の大病院の医師
0.1	わからない

(4) 【回答票 28】 その「かかりつけ医」には何年ぐらいかかっていますか。この中から1つだけお答えください。2人以上いる場合は最もよく受診するかかりつけ医についてお答えください。

5.1 (ア) 1年未満	26.8 (オ) 10年～20年未満
13.3 (イ) 1年～3年未満	11.1 (カ) 20年～30年未満
13.8 (ウ) 3年～5年未満	7.2 (キ) 30年以上
22.3 (エ) 5年～10年未満	0.6 わからない

(5) 【回答票 29】 この1年間に、あなたがそのかかりつけ医を受診した回数ほどのくらいですか。この中から1つだけお答えください。

9.0 (ア) この1年は受診していない	5.2 (オ) 月に2回程度
20.9 (イ) 1年に1～2回程度	1.5 (カ) 月に3, 4回程度
30.8 (ウ) 1年に3～10回程度	1.3 (キ) 月に5回以上
31.1 (エ) 月に1回程度	0.1 わからない

(6) 【回答票 30】 そのかかりつけ医はどの診療科の医師ですか。この中から1つだけお答えください。

85.1 (ア) 内科	1.0 (オ) 眼科
3.7 (イ) 外科	0.4 (カ) 小児科
4.0 (ウ) 整形外科	2.8 (キ) その他(具体的に)
1.9 (エ) 婦人科	0.9 わからない

(7) 【回答票 31】 大病院などの専門医にかかりたいとき、まずはかかりつけ医に相談しますか。この中から1つだけお答えください。

58.4 (ア) いつも相談する
23.8 (イ) 相談することもある
6.9 (ウ) 相談しない
7.2 (エ) 専門医にかかることがない
3.7 わからない

(8) 【回答票 32】 あなたはそのかかりつけ医をどのようにして選びましたか。この中からあてはまるものをいくつでもお答えください。(M. A.)

36.6 (ア) 家族や知り合いから紹介(推薦)された
18.4 (イ) 医師や医療機関から紹介された
50.1 (ウ) 自宅や職場の近隣で見つけた
3.4 (エ) ネット上のホームページで調べた
0.0 (オ) 雑誌や書籍等で調べた
1.0 (カ) 行政や医師会などからの紹介
1.6 (キ) 広告や看板を見た
0.7 (ク) その他(具体的に)
0.6 わからない

(9) 【回答票 33】 あなたがその医師をかかりつけ医としている理由はなぜですか。この中からあてはまるものをいくつでもお答えください。(M. A.)

37.8 (ア) 現在あるいは以前にかかった病気の主治医だから
21.4 (イ) 健康について幅広く相談できるから
16.4 (ウ) 病気を限定せず総合的に診てくれるから
55.2 (エ) 住まいや職場の近所だから
24.7 (オ) 自分の病歴などをよく知っているから
1.9 (カ) その他(具体的に)
0.1 わからない

(10) 【回答票 34】 現在、あなたのかかりつけ医から処方されている薬の種類は全部でいくつありますか。この中から1つだけお答えください。貼り薬などは除いてください。

31.2 (ア) 今は無い	4.6 (オ) 6～7種類
16.1 (イ) 1種類	2.4 (カ) 8～9種類
33.5 (ウ) 2～3種類	1.0 (キ) 10種類以上
10.9 (エ) 4～5種類	0.1 わからない

(11) 【回答票 35】 あなたは、あなたのかかりつけ医を家族や友人に薦めますか。この中から1つだけお答えください。

34.8	40.8	11.4	6.6	6.4
(ア) 薦める	(イ) まあ薦める	(ウ) あまり薦めない	(エ) 薦めない	わからない

【Q21で「2・3（かかりつけ医がいない）」と答えた人に】 n=530

S Q 2. 【回答票 36】 あなたにかかりつけ医がいないのはどうしてですか。この中からあてはまるものをすべてあげてください。(M. A.)

- 72.3 (ア) あまり病気にかからないので必要ないから
- 18.5 (イ) どのような医師がかかりつけ医に適しているのかわからないから
- 9.8 (ウ) かかりつけ医に適していると思う医師が見つからないから
- 16.6 (エ) かかりつけ医を選ぶための情報が不足しているから
- 12.5 (オ) かかりつけ医を探す方法がわからないから
- 4.3 (カ) かかりつけ医を探す時間がないから
- 5.8 (キ) ご自身の引っ越しやかかりつけ医の退職や移転があったから
- 24.5 (ク) その都度、受診する医療機関を選んでいるから
- 7.7 (ケ) いつも行く医療機関はあるが、受診する医師は決まっていないから
- 0.4 (コ) その他（具体的に)
- 2.5 特に理由はない・わからない

【全員に】

Q22. 【回答票 37】 あなたはかかりつけ医にどのような医療や体制を望んでいますか。

次の(1)～(12)について、あなたのお気持ちに近いものを、それぞれ1つずつお答えください。
かかりつけ医がいない方もお答えください。

	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	
	そう 思う	まあ そう 思う	どちらとも いえない	あまり そう思 わない	そう思 わない	わから ない
(1) どのような病気でもまずは診療できる……	→ 53.5	31.7	8.6	3.1	1.7	1.4
(2) 必要なときはすぐに専門医や 専門施設に紹介する	→ 61.2	30.9	5.3	0.6	0.2	1.8
(3) 患者情報を紹介先に適時適切に提供する……	→ 56.3	31.4	7.3	1.3	0.2	3.5
(4) 夜間休日の電話相談を行う……	→ 28.8	30.4	21.9	8.9	5.1	4.9
(5) 夜間休日の診療を行う……	→ 29.2	29.5	21.2	9.3	6.0	4.7
(6) 定期健診や検診……	→ 40.2	34.6	14.3	4.0	3.1	3.9
(7) 生活習慣病の予防を含めた 健康な生活のための助言・指導	→ 41.2	38.9	12.1	3.3	1.5	3.0
(8) 不在時には別の医師が 診療してくれる24時間体制	→ 28.2	26.8	21.0	11.6	8.1	4.3
(9) 往診や訪問診療などの在宅医療……	→ 24.9	30.8	21.9	9.3	7.5	5.6
(10) 最期の看取りを行う……	→ 21.4	23.6	27.4	9.2	9.2	9.2
(11) 認知症に関する相談ができる……	→ 29.9	32.3	20.0	6.0	4.4	7.4
(12) 自分らしい人生の終わり方の 相談ができる	→ 23.3	25.7	26.4	8.4	7.3	8.9

Q23. 【回答票 38】 あなたがかかりつけ医を選ぶ際、どのようにして見つけるのがよいですか。

あなたの考えに近いものをすべてあげてください。(M. A.)

40.4	(ア)	口コミ、冊子、ネット情報などを自分で調べて決めるのがよい	
49.8	(イ)	かかっている医師から紹介してもらって自分で決めるのがよい	
17.3	(ウ)	地域の行政や医師会などから紹介してもらって自分で決めるのがよい	
8.3	(エ)	自分では決められないので、行政や医師などに決めてもらうのがよい	
2.1	(オ)	その他(具体的に)
9.2		特にない・わからない	

Q24. 【回答票 39】 どのような病気でも、初期診療を適切に行うための研修を、かかりつけ医が受けることについて、どのように思われますか。

47.1	42.4	4.2	0.6	5.7
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
大いに必要	まあ必要	あまり必要でない	まったく必要でない	わからない

Q25. 【回答票 40】 新型コロナに関して、発熱などの症状がある場合、かかりつけ医などへあらかじめ電話で相談することが方針として出されました。このことについて、あなたのお考えに近いものを、この中からすべてお答えください。(M. A.)

47.1	(ア)	かかりつけ医がいるので、必要があれば電話をしようと思った	
4.2	(イ)	かかりつけ医がいて、その医師に電話をした	
2.1	(ウ)	かかりつけ医はいるが居住地の近くではないので、不安を感じた	
11.6	(エ)	かかりつけ医がいないので、不安を感じた	
18.6	(オ)	かかりつけ医はいないが、不安は感じなかった	
14.4	(カ)	そのような情報は知らなかった	
0.9		その他(具体的に)
5.0		わからない	

以上でかかりつけ医に関する設問は終わりです。

次に、医療機関の受診や医療制度に関わる要望についておうかがいします。

Q26. [回答票 41] 医療機関の受診のあり方として、次のAとBの2つの考え方について議論されています。あなたはどちらに賛成しますか。

- A 病気の程度にかかわらず、自分の判断で選んだ医療機関を受診する
- B 最初にかかりつけ医など決まった医師や医療機関を受診し、その医師の判断で必要に応じて専門医療機関を紹介してもらい受診する

- 19.1 (ア) Aの意見に賛成である
- 11.2 (イ) どちらかといえばAの意見に賛成である
- 27.7 (ウ) どちらかといえばBの意見に賛成である
- 38.0 (エ) Bの意見に賛成である
- 4.0 どちらともいえない・わからない

Q27. [回答票 42] ここに、A・B2つの意見があります。あなたのお考えに近いのはどちらですか。

- A 所得の高い低いにかかわらず、受けられる医療の中身（治療薬や治療法）は同じであるほうがよい
- B 所得の高い低いによって、受けられる医療の中身（治療薬や治療法）が異なることはやむを得ない

74.3	15.3	8.3	2.1
(ア)	(イ)	(ウ)	
Aの考えに近い	Bの考えに近い	どちらともいえない	わからない

Q28. [回答票 43] 仮に、あなたご自身が治る見込みがなく、余命が半年ぐらいに迫っていると告げられた場合、^{さいご}最期までの療養生活をどこで送りたいと思いますか。あなたのお気持ちに最も近いものを1つだけお答えください。

- 28.6 (ア) 自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院したい
- 25.7 (イ) 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア施設（ホスピス、緩和ケア病棟など終末期の症状緩和を目的とした施設）に入院したい
- 18.6 (ウ) 自宅で^{さいご}最期まで療養したい
- 4.9 (エ) 介護施設（老健や特養など）や、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅などの居宅で過ごしたい
- 5.0 (オ) そのときまで通った（または入院中の）医療機関で過ごしたい
- 6.9 (カ) 緩和ケア施設で過ごしたい
- 3.1 (キ) 専門医療機関（がんセンターなど）で積極的に治療を受けたい
- 0.4 (ク) その他（具体的に ）
- 6.8 わからない

Q29. [回答票 44] あなたは、ここにあげた（1）～（4）のそれぞれについて、どのようにお考えになれますか。それぞれについて、最もあてはまるものを1つお答えください。

	(ア)	(イ)	
	はい	いいえ	わからない
(1) 地域の医院や診療所（クリニック）、病院を選ぶときの情報は十分にありますか…………… →	47.4……………	43.3……………	9.2
(2) 医院や診療所（クリニック）で標榜している診療科の表示がわかりにくいと思うことがありますか…………… →	34.1……………	58.5……………	7.4
(3) お住まいの地域の医師が不足していると感じることがありますか…………… →	27.1……………	61.3……………	11.6
(4) 国は医療へ支出を増やすべきだと思いますか…………… →	65.8……………	19.5……………	14.7

Q30. 【回答票 45】 200 床以上の大病院などで初診を受ける際、診療所などからの紹介状がないと、5000 円以上の料金を余計に支払うこととなります。あなたはこのことをご存じですか。この中から 1 つだけお答えください。

53.5	19.7	8.7	17.7	0.5
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
よく知っている	まあ知っている	あまり知らない	まったく知らない	わからない

Q31. 【回答票 46】 あなたには精神的な不調を感じたときに相談できる医師や専門家が身近にいますか。

30.4	22.6	43.9	3.1
(ア)	(イ)	(ウ)	
いる	いないが いると よいと思う	いない	わからない

Q32. あなたは、過去 1 年間に、具合が悪いのに費用がかかるという理由で医療機関に行かなかったことがありますか。

4.5	94.7	0.7
あ る	な い	わからない

最後に、医療や介護など全体についての、あなたのお考えをおうかがいします。

Q33. 【回答票 47】 あなたは、これからの医療がどのように変わることを期待しますか。ここにあげた (1) ~ (4) について、最もあてはまるものをそれぞれ 1 つずつお答えください。

	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
	大いに 期待する	やや 期待する	あまり 期待しない	まったく 期待しない	わから ない
(1) 人工知能 (A I) による画像診断など、 A I を駆使した医療…………… →	38.8	36.1	13.9	2.6	8.7
(2) 血圧などを日常的に図るツールを活用して 自身で健康管理ができる医療…………… →	36.4	45.0	11.6	1.1	5.9
(3) 適切な診療と専門医への紹介をしてくれる かかりつけ医を全ての国民が持つ医療…………… →	34.3	41.7	14.4	1.4	8.1
(4) 遺伝子治療などのオーダーメイド医療…………… →	22.3	31.1	23.7	6.0	16.9

Q34. 【回答票 48】 さまざまな疾患の診断や治療に関する指針が学会などで作成され、「診療ガイドライン」という形で公表されています。あなたは診療ガイドラインをご存じですか。

8.7	29.3	56.8	5.1
(ア) 聞いたことがあり、見た (読んだ) こともある	(イ) 聞いたことはあるが、見た (読んだ) ことはない	(ウ) 聞いたことも見た (読んだ) こともない	わからない

Q35. 【回答票 49】 あなたは現在の生活にどの程度満足していますか。この中から 1 つだけお答えください。

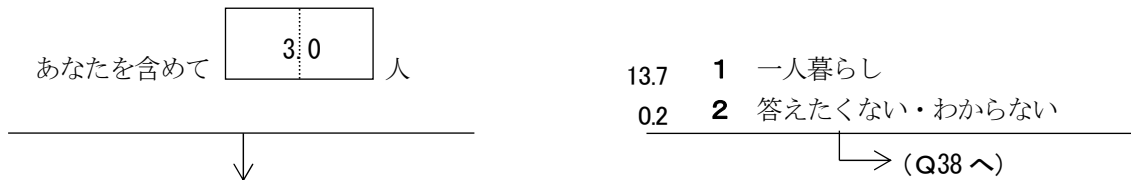
23.8	65.8	8.5	1.6	0.4
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である	わからない

日常の健康管理についておうかがいします。

Q36. 【回答票 50】あなたが日常的に気をつけていることについてお教えてください。この中からあてはまるものをすべてあげてください。(M. A.)

- 92.5 (ア) 手洗いやうがいを行う
- 31.5 (イ) 定期的にかかりつけ医の診察を受けている
- 56.8 (ウ) 栄養バランスなど食生活に気をつけている
- 45.6 (エ) 運動や体操をしている(ウォーキングなどを含む)
- 52.0 (オ) 規則正しい生活を心がけている
- 64.2 (カ) 休息や睡眠をとるようにしている
- 17.2 (キ) サプリメントやトクホなどを定期的に摂取している
- 38.7 (ク) 新聞・テレビなどで健康の情報や知識を得るようにしている
- 49.9 (ケ) 健康診断(定期健診、特定健診、人間ドックなど)を定期的に受けるようにしている
- 0.1 (コ) その他(具体的に)
- 1.6 特にない・わからない

Q37. あなたを含めて、と一緒に暮らしているかたは合計で何人いらっしゃいますか。



【Q37で「2人以上」と答えた人に】

S Q 1. 一緒に暮らしているかたの中に、小学生以下の方がいらっしゃいますか。	n=1,044
22.7	76.6
はい	いいえ
	0.7
	答えたくない

調査員注：1 ページ目の対象者の年齢を確認すること。対象者が70歳未満の場合、Q38へ。

【Q37で「2人以上」と答えた人のうち、70歳以上の人に】 n=238

S Q 2. あなたは現在、70歳以上のかたのみでお住まいですか。さしつかえなければお教えてください。

- 52.1 1 はい(70歳以上の方のみで暮らしている)
- 43.3 2 いいえ(70歳未満の方も同居している)
- 4.6 3 答えたくない・わからない

【全員に】

Q38. 【回答票 51】あなたが加入している健康保険の種類は何ですか。この中から1つだけお答えください。

- 33.0 (ア) 国民健康保険(市町村国保・国民健康保険組合)：自営業や農業、自由業、非正規雇用者など
- 27.5 (イ) 組合健保：大企業の従業員やその扶養家族など
- 14.8 (ウ) 協会けんぽ：中小企業の従業員やその扶養家族など
- 6.4 (エ) 共済組合：公務員、教職員やその扶養家族など
- 17.2 (オ) 後期高齢者医療制度：75歳以上全員
- 0.2 (カ) その他(具体的に)
- 1.0 覚えていない・わからない

Q39. 【回答票 52】あなたのお宅の1年間の世帯収入は、ボーナスや臨時収入を含め、税込みでおよそどのくらいになりますか。おさしつかえなければ、この中からお答えください。

- 9.4 (ア) 200万円未満
- 11.5 (イ) 200万円～300万円未満
- 15.8 (ウ) 300万円～500万円未満
- 12.3 (エ) 500万円～700万円未満
- 5.3 (オ) 700万円～800万円未満
- 4.0 (カ) 800万円～1,000万円未満
- 5.0 (キ) 1,000万円以上
- 36.6 答えたくない・わからない